



千葉大学

子どものこころの 発達教育研究センター

Research Center for
Child Mental Development
Chiba University

令和元年度（2019年度）

自己点検・評価報告書

Report of Self-Evaluation 2019



CHIBA
UNIVERSITY

目次

センター長挨拶	3
センター概要	7
部門紹介	13
研究活動報告	27
業績	43
社会還元	61
研究費補助金	91
研究協力機関	99
連合小児発達学研究科	103
規程	111
自己点検・評価	117

センター長挨拶

センター長挨拶

2019年4月から2020年3月までの、平成31年から令和元年に年号が変わった一年間の活動報告書になります。

千葉大学子どものこころの発達教育研究センターは、2011年4月に、千葉大学大学院医学研究院に「子どものこころの発達研究センター」として新設され、令和元年で9年目になります。

その前年度の2010年4月から、英国をモデルとした千葉認知行動療法トレーニングコース（Chiba Improving Access to Psychological Therapies; Chiba IAPT）を開始し、今日まで高強度の認知行動療法の人材養成に努めております。

2012年4月から、大阪大学・金沢大学・浜松医科大学・千葉大学・福井大学連合大学院小児発達学研究所（3年制博士課程）の中に、こころの認知行動科学講座（認知行動療法学・メンタルヘルス支援学・認知行動脳科学の3研究領域）を開講しています。

2015年4月から、千葉大学子どものこころの発達教育研究センターと現在の名称で、全学組織となり、総合大学である千葉大学の利点を生かし、医学、教育学、心理学、工学、情報科学、脳科学などの領域横断的な連携によって、研究を加速させてきました。

2016年10月には、千葉大学医学部附属病院に認知行動療法センターを開設し、多職種による認知行動療法の提供を開始しています。

2018年度から、千葉大学学内リーディング研究育成プログラムの1つとして、「心理学・精神科学の文理横断橋渡し研究拠点（心理精神科学）」プログラムが採択され、人文科学、教育学、医学との連携を深めています。同じく2018年度から、千葉大学大学院医学研究院の文部科学省「課題解決型高度医療人材養成プログラム（精神関連領域）」の認知行動療法の人材養成に加えて、医師、歯科医師、看護師、薬剤師、コメディカル等がセルフヘルプをガイドする低強度の認知行動療法の人材養成をオンライン授業やネット教材を活用して行っています。

2015年度から2019年度までの5年間にわたって行われた文部科学省委託のいじめ対策・不登校支援等推進事業「子どもみんなプロジェクト」は、子どものこころの発達の問題について、教育現場と研究者が連携して解決にあたるプラットフォームの構築を目指して、千葉大学、大阪大学、武庫川女子大学、金沢大学、浜松医科大学、福井大学、弘前大学、中京大学、鳥取大学、兵庫教育大学の10大学コンソーシアムと連携する教育委員会（青森県、千葉県、千葉市、柏市、館山市、静岡県、浜松市、磐田市、大府市、石川県、福井県、大阪府、池田市、兵庫県、西宮市、鳥取県）で取り組み、情動の学校コホート研究が学級単位での対照群をおいた比較介入研究をこれまで推進してきました。2020年度からも、第二期として継続予定です。

今後ともメンタルヘルス研究を推進していく所存ですので、当センターの教育研究および臨床実践にご支援いただきますように、どうぞよろしくお願い申し上げます。



千葉大学子どものこころの
発達教育研究センター
センター長 清水栄司

センター概要

センター概要

設立の背景

少子化時代を迎えたわが国の社会が直面する最大の課題は、「子どものころを健やかに育てる」ことです。しかしながら、子どものころはきわめて深刻な危機にさらされ、子どものころのひずみが問題となっています。たとえば、虐待の問題、青少年の犯罪、「いじめ」を苦にした自殺、広汎性発達障害や注意欠如・多動性障害等の発達障害を持つ子どもの増加などが挙げられます。とりわけ、子どものうつ病、不安障害（パニック障害、強迫性障害、社交不安障害、心的外傷後ストレスなど）、摂食障害の低年齢化が進み、子どものころのひずみへの介入に対して社会的な要請が高まっています。

一方で、子どものころを扱う専門家は数が不足しており、さらにその多くは心理学、保健学、看護学、教育学などをそれぞれに修めた専門家であり、各専門領域と経験に基づいて子どものころを扱っているため、定式化されたものはなく、科学的な視点も不足しているのが現状です。これらの問題を克服するためには、それらの専門家に対して、脳科学、心理学、教育学の統合的観点に立ち、系統だった教育研究を行うのが最も現実的です。子どものころの問題は複雑であり、またその問題を扱う専門分野は多様であるため、既存の単独の教育機関においては十分な成果を挙げるのが困難になっています。

このような状況の中、2006年4月から文部科学省の支援のもと、「『子どものころの発達研究センター』における教育研究事業」がスタートし、大阪大学・金沢大学・浜松医科大学の連携により教育研究の基盤が整備されました。千葉大学大学院医学研究院には、2011年4月1日に「子どものころの発達研究センター（千葉センター）」が新設されました。2012年4月からは連合大学院小児発達学研究科に千葉大学と福井大学も参加し、それぞれの特色を生かした5大学連携による教育研究基盤体制へと一層の充実が図られました。また、2015年4月からは学内共同教育研究施設として「子どものころの発達教育研究センター」と改称し、医学、教育学、心理学、専門法務、看護学、工学・融合科学・情報科学などの部局の垣根を超えた教育研究体制を構築して研究を行っています。

千葉センターの教育研究事業

千葉大学には、大学院医学研究院精神医学と認知行動生理学との連携により、成人の不安障害、摂食障害、うつ病に対する認知行動療法の実践と脳科学的研究および教育研究基盤を構築した実績があります。たとえば、千葉大学医学部附属病院精神神経科・子どものころ診療部において、不安障害や摂食障害の認知行動療法専門外来を開設し、高度に熟練した医療用セラピストを養成する Chiba-IAPT (Improving Access to Psychological Therapy) プロジェクトを立ち上げてきました。

こうしたこれまでの実績を背景に、千葉センターでは「子どもへの認知行動療法に関する教育研究事業」をスタートさせました。そこでは、医師や心理士、看護師・保健師、精神保健福祉士などの資格を有しながら現場で活躍する専門職社会人を、ハイレベルで科学的な子どもへの認知行動療法を実践できる高度専門家や指導者に養成することを目指します。

2016年10月1日には、千葉大学医学部附属病院に認知行動療法センターを設置し、千葉センタースタッフの医師・臨床心理士・看護師等の連携による個人認知行動療法の提供を開始しました。

認知行動療法とは

認知行動療法（Cognitive Behavioral Therapy: CBT）とは、従来の精神療法（カウンセリングなど）の傾聴、受容、共感などの良さをそのままに、さらに、物の考え方（認知）や行動、感情の因子から、症状を維持する悪循環のパターンを同定し、それらを修正する手法を主とした精神療法・心理学的介入のことです。科学的根拠（エビデンス）に基づいた顕著な治療効果を有しつつ、不安症、摂食障害など、多くの精神疾患の治療ガイドラインで第一選択となっています。

期待される効果

1) 学問的波及効果

日本独自の観点から、子どもに対する認知行動療法を開発し、大規模な臨床試験と医学研究により、明確なエビデンスを世界に示し、日本のみならず世界への普及を目指します。

2) 社会的波及効果

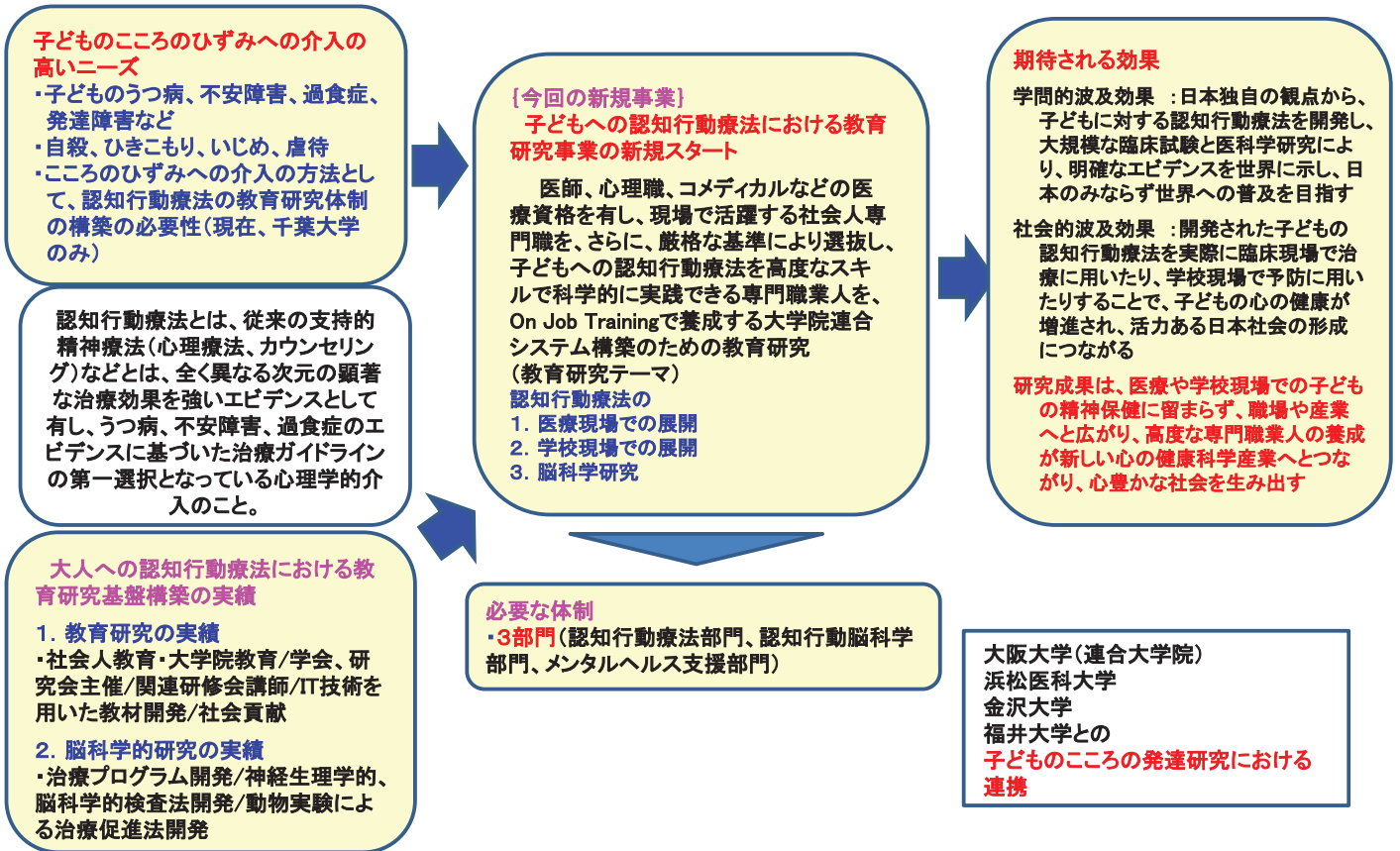
開発された子どもの認知行動療法を実際に臨床現場での治療に用い、また学校現場での予防にも用いて、「子どものこころを健やかに育てる」ことにより、活力ある日本社会の形成に貢献します。

センターの組織

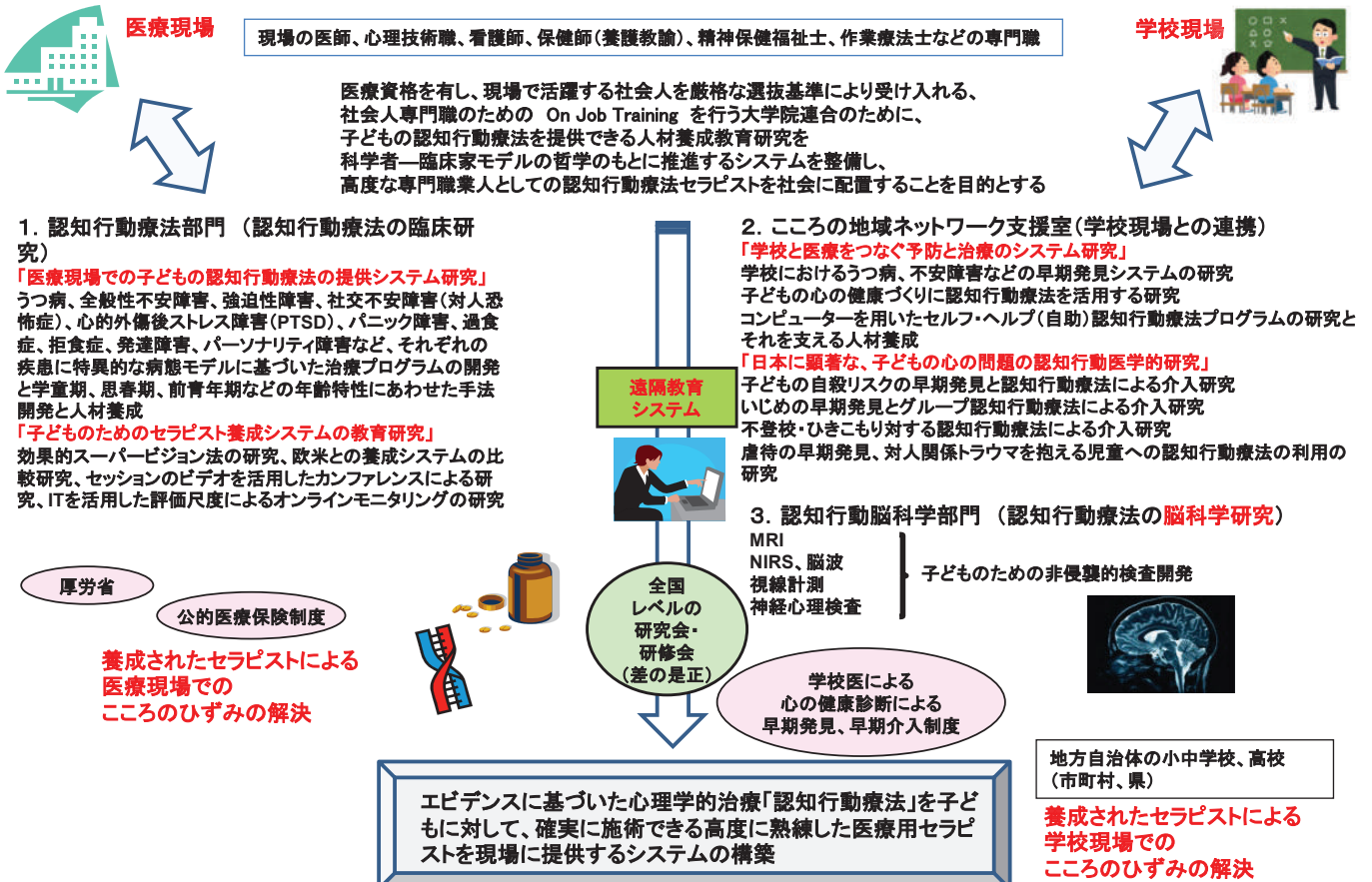
子どものこころの発達教育研究センターは以下の3つの部門で構成されています。

- 1) 認知行動療法学部門
- 2) 認知行動脳科学部門（2019年4月1日に認知情報技術部門より名称変更）
- 3) メンタルヘルス支援学部門

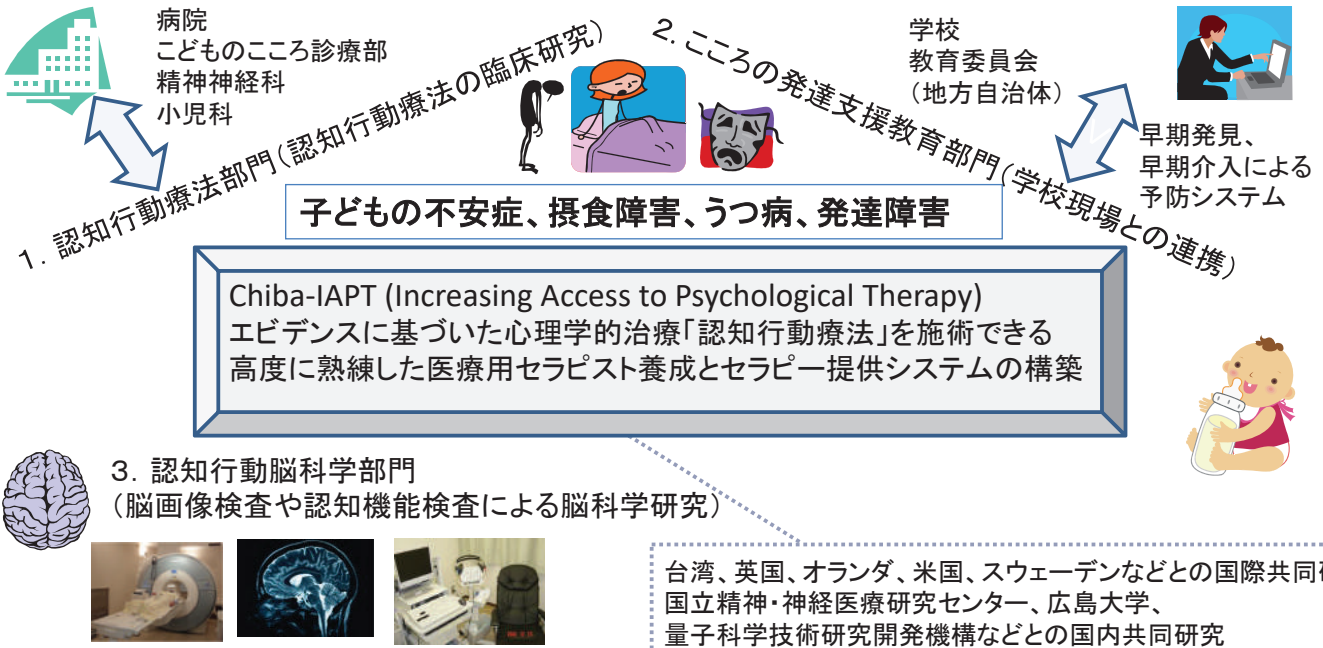
子どものこころの発達教育研究センター(千葉センター)による教育研究事業



子どもの認知行動療法の専門職業人教育研究



子どものこころの発達教育研究センターによる教育研究事業

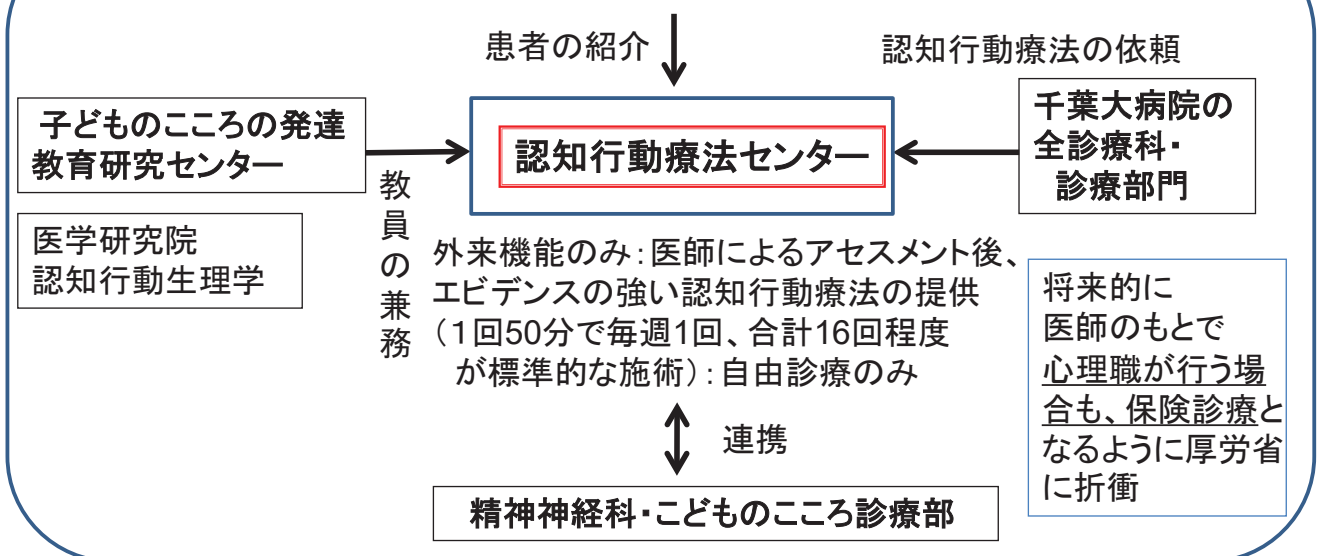


大阪大学・浜松医科大学・金沢大学・千葉大学・福井大学 連合大学院小児発達学研究所

医学部附属病院 認知行動療法センター

「治療学」の推進: 心理学的な治療に特化した診療部門

認知行動療法を希望される患者様を他の医療機関よりご紹介



うつ・社交不安・パニック・強迫・恐怖・過食・食思不振・肥満・やせ・慢性疼痛・身体症状症(過呼吸・過敏性腸症候群・過緊張性膀胱)・病気不安症(心気症)・醜形恐怖症・自閉スペクトラム・適応障害

患者および家族の心理的なQOLと満足度向上

部門紹介

認知行動療法学部門

1) 認知行動療法士の養成

認知行動療法は、世界的にもその効果が高いエビデンスレベルで実証されてきている心理療法です。ところが、その比較的新しい歴史のために、認知行動療法の先進国においても、治療者不足を解消するためにいろいろな政策や工夫がなされていますが、我が国における実情はそれに比べてもかなり深刻です、当センターの「認知行動療法学部門」では、メンタルヘルスにおける有効な心理療法の治療者不足の解消という我が国の課題を解決するために、認知行動療法を実施可能な医師、臨床心理士の養成を目指したトレーニング・コースを設けています。本コースの目的は、国際的に認められている認知行動療法のトレーニング・プログラムと同等のプログラムを提供し、認知行動療法による心理学的治療が可能な専門家を養成することです。

千葉センターでは、毎年10人前後の研修生が2年間にわたって、週1日およそ7時間の講義、ワークショップ、スーパービジョンを受けます。さらに、千葉大学および所属する医療機関において、実践する症例の認知行動療法セッションをビデオ撮影または録音をし、これに基づいて有資格者によるスーパーバイズを受けながら認知行動療法の修練をおこなっています。このトレーニング・プログラムは、英国バース大学および英国キングスカレッジロンドン精神医学研究所（Institute of Psychiatry : IOP）と提携して立ち上げられ、イギリスをはじめ国内外から著名な専門家を招聘して指導を受ける機会なども作られています。

研修生による認知行動療法の治療効果は、症状評価尺度によってチェックされており、治療自体の評価・改善だけでなく、トレーニング・プログラムの評価・改善に使用されています。さらに、全集積データを用いて、千葉センター全体での治療効果を英国での報告と比較検討し、国際的水準を維持できているかどうかの指標としております。このトレーニング・システムにより養成されるセラピストは、平成28年10月から医学部附属病院に開設された認知行動療法センターでの診療をはじめ、「こころの地域ネットワーク支援室」を通じて、千葉県内の子どもの不安症、強迫症、うつ病、摂食障害、慢性疼痛、依存性疾患等の精神疾患の心理学的治療や一般のメンタルヘルスの向上を担う重要な人材となっています。

2) 認知行動療法の治療効果の実証、新たな技法の開発、および普及方法の開発

上記の認知行動療法の研修生、修了生による不安症、強迫症、うつ病、摂食障害への治療効果を検討し、認知行動療法の有効性に関する研究成果を生み出しています。

それぞれの疾患においては、これまでのプログラムに加え、より治療効果を上げるための研究が進められています。中でも、社交不安障害ではイギリスで開発された“イメージの書き直し”という新しい治療技法を取り入れたプログラムの治療の効果検証を行っています。

また、すべての疾患において、時間的、距離的など様々な理由で認知行動療法にアクセスしにくい患者さんのために、テレビ会議システムを用いた遠隔の認知行動療法の臨床研究をおこない、その有用性を確認し、認知行動療法の普及に努めています。

さらに、認知行動療法を患者さんに提供する方法の開発だけでは解消されない、認知行動療法の治療者数を増やすという我が国の課題の解消のために、認知行動療法を実施する治療者を実践でサポートする遠隔スーパーバイズの提供による効果の検討も始めています。

認知行動脳科学部門

精神疾患の治療は、患者のメンタルヘルスの問題を正確に把握することが必須となっていますが、言語発達のおよび社会的な点から、子どものメンタルヘルスの問題を把握することは大人以上に困難であるのが現状です。また子どもは一般的に、検査に対する忍容性が低いため、なるべく精神的負担を与えない非侵襲的手法による検査法と、副作用を引き起こす可能性のある薬物療法に頼らない治療法が求められています。このような状況下で、認知行動療法は子どものメンタルヘルスにおいて大きく期待されています。しかしながら、現在のところ子どもに対する認知行動療法は有効であることは確認されていますが、脳の神経回路に与える影響についてはあまり調べられていません。

このような背景から、本部門では「子どものための非侵襲的検査の開発」および「神経生理学検査および脳画像検査を用いた認知行動療法の作用機序の解明」のために、機能的MRI (fMRI)、形態学的MRI、拡散テンソル画像 (DTI)、脳波、注視点検出装置、および認知機能検査などの非侵襲的な脳機能計測法を用いて、精神疾患において出現する脳機能の変化と、脳神経回路における認知行動療法の影響を調べています。



強迫症の病態解明や、認知行動療法の治療抵抗性の解明に関する研究

強迫症は強迫観念とそれにとまなう強迫行為が繰り返される精神疾患ですが、自閉スペクトラム症 (autism spectrum disorder ; ASD) を併発しやすい疾患としても知られており、併存例では認知行動療法が奏効しづらいことが報告されています。また、強迫症状は自閉スペクトラム症の二次症状として発現している例も少なくないことから、強迫症の病態のしくみを理解するためには、ASD の併存の有無、自閉スペクトラム傾向や症状特性との関連性を検討することが重要であると考えています。本部門では子どもと大人のMRI撮像を行い、形態学的MRIおよびDTIを用いて、強迫症の方の自閉スペクトラム傾向や症状ディメンジョンとの関連性や、認知行動療法の治療抵抗性の仕組みを調べています。

注視点検出技術を利用した、ASD 児・者における社会的情報への視覚的注意に関する研究

ASDは、「社会的コミュニケーションおよび対人的相互反応における持続的な欠陥」が診断基準となっているように、視線が合いにくい、情動の共有が難しいといった特徴があります。このような特徴を客観的に計測する技術として注視点分布計測装置が以前よりありましたが、乳幼児の計測に適した装置が連合小児発達学研究科で開発されまし

た。この装置には、乳幼児を対象とした約2分間の映像が組み込まれ、簡便な手法で子どもに負担なく、注視点分布の計測が可能となりました。計測した注視点から、顔動画の目と口の領域への注視比率、フラクタル動画と人動画の注視率、点画による生体運動における正立像、および共同注視動画におけるヒトの顔領域、指差しの対象領域、指差しとは無関係な模様領域への注視率の相違から、ASDの診断指標の開発が行われています。本部門では、ASD児・者における社会的情報への視覚的注意と臨床症状との関連性を調べています。

社交不安症における恐怖に関する神経回路の変化と、認知行動療法の作用メカニズムに関する研究

社交不安症は、対人関係や社交場面における強い不安・緊張を主な症状とし、社会的状況を回避することで、日常生活に大きな支障をきたす精神疾患です。さらに不安症の中での罹患率は最も高く、うつ病をはじめとした多くの併存疾患をもつことが知られています。治療は選択的セロトニン阻害薬（SSRI）などの薬物療法により行われますが、認知行動療法も同程度の効果を示し、認知行動療法の最も有効な精神疾患の一つとなっています。しかし、認知行動療法の効果を神経生物学的に確認した研究はあまりありません。否定的な感情を調節することが難しくなっている社交不安症では、人から見られたり注目を浴びたりすることで恐怖の神経回路が容易に活性化されることが予想されています。本部門では、MRIや認知機能検査を用いて、社交不安症の方の恐怖の神経回路の変化と認知行動療法の脳神経回路へ与える影響を調べています。

摂食障害患者と肥満症における認知的変化、認知行動療法の効果に関する研究

神経性過食症（過食症）や神経性やせ症（拒食症）などの摂食障害は10代の女性に発症することが多く、抑うつや不安などを合併することから不登校の原因の一つとなっています。また、特に神経性やせ症では身体の正常な発育が妨げられるだけでなく、死亡する危険性も少なくないことから、迅速な対応が求められる思春期の主要な精神疾患となっています。神経性過食症と神経性やせ症はどちらも体重と体型の感じ方に障害をもち、特に神経性過食症では衝動的な摂食の欲求がしばしば生じます。また、情動調整や感情の認知障害（失感情症）を示すこと、味覚刺激に対する脳応答も異なることも指摘されています。また、むちゃ食い障害を併存する高度肥満症では報酬系の異常が報告されています。本部門では、MRIや認知機能検査を用いて、摂食障害・肥満症の方の過食衝動や失感情症、報酬系などの認知的変化と認知行動療法の脳へ与える影響を調べています。

メンタルヘルス支援学部門

児童・思春期・成人期のそれぞれにおいては、その発達段階に応じてメンタルヘルスの問題が存在することがあります。その問題が、神経発達症や、不安や抑うつなどの精神疾患の問題がある場合、早期発見と早期支援がその後の社会的適応・心理的適応に大きく影響するため、専門機関をはじめ、家庭や学校、地域社会において、エビデンスのあるアセスメント方法および支援方法の確立と活用が急務となっています。

本部門では、子どもから成人までの発達に応じたメンタルヘルスの諸問題の予防、および神経発達症のアセスメントに基づく診断およびエビデンスに基づく心理的介入の観点から、子ども本人とその家族、および集団に対して、保健、医療、福祉、教育等の多様なバックグラウンドをもつ専門職が出来る、実証に基づく支援に関して介入法の開発と検証の研究を行っています。

また、社会的貢献として、メンタルヘルスの諸問題の予防、および神経発達症のエビデンスに基づく心理的介入に関する教育講演を、地域や学校、関連学会等で積極的にを行い、啓蒙活動および介入指導者の育成にも努めています。

本部門では、具体的に以下のような研究及び実践を行っています。

1. 神経発達症（特に自閉スペクトラム症）の認知行動療法を用いた心理社会的支援

ASDとは、「対人コミュニケーションの障害」と「限定された反復的な行動様式（こだわり）」を主徴とする神経発達症群の1つです（APA, 2013）。ASDの人の臨床像は多様で、年齢、発達/知的水準、性、環境等によって大きく異なります。そのため、個人の特性を丁寧に把握することが支援の第一歩となります。このような背景のもとに「ASDに気づいてケアするプログラム（Aware and Care for my Autistic Traits; ACAT）」は、思春期以降のASD者および保護者に対する、ASDの理解と配慮・対処の増強を目的としたCBTによる心理教育プログラムとして開発しました（Oshima, 2017）。ACATは、ASD児・者とその家族に対し、ASDの特性の自己理解を促し、その個人にあった合理的配慮および対処方略を立て、ASDの特性を持ちながらも、生活上の障壁を取ることを目的とした、全6回の親子参加の心理教育プログラムである。現在、千葉大学を中心に多施設でのランダム化比較試験を行っています。

また、ASDに関連する調査研究として、第三世代の認知行動療法と呼ばれる新しい精神療法であるスキーマ療法を用いて、スキーマ療法のモデルと自閉スペクトラム症の関連について報告し、ASDに関する質問紙尺度（社会的カモフラージュ行動尺度・治療スティグマ尺度）の日本語版標準化に取り組んでいます。なお、ASDに関する書籍を出版しました（大島・鈴木, 2019）。

社会実装のための活動としては、「勇者の旅」ワークブックの作成や、e-learning教材の開発などに取り組んでいます。また、小中高等学校の教諭・養護教諭等を対象に、「勇者の旅」指導者養成研修会を定期開催し、授業実践できる指導者を養成している。神経発達症に関する外部向け研修会およびスキーマ療法の国際資格取得のための2年間のトレーニングコースを2018年より継続的に施行しています。

2. 学校現場での認知行動療法を用いた予防教育の効果検証と社会実装

児童・思春期の子どもから高校生までのメンタルヘルスの問題を予防または早期介入するために、学校現場や地域社会等で認知行動療法を用いた予防的アプローチを行うことによる、介入効果の検証を行うとともに、予防教育プログラムの社会実装を行っています。

1)子どもの不安への対処力を養う「勇者の旅」プログラムの効果検証

学校現場における不登校やいじめ等、生徒指導上の問題に関しては、不安の問題が背景にあると考えられるケースが多くあります。また、子どもたちが抱える不安の問題は、不安症のみならずうつ病や様々な行動問題へと発展することが報告されています(Cole et al., 1998; Weissman et al., 1999)。これらのことから、子どものこころの問題に対しては、不安に焦点化した予防教育を行うことが有用と考えられます。諸外国では、認知行動療法に基づく不安の予防教育プログラムの効果が、複数のシステマティックレビューによって示されています(Neil and Christensen et al., 2009; Fisak et al., 2011)。そこで我々は、認知行動療法の理論に沿って子どもたちが不安の問題に対処する方法を学習する予防教育プログラムを開発し、実践と効果検証を行っています。

小学校高学年向けの不安の認知行動療法プログラム「勇者の旅」は、県内の小学校高学年児童を集めて実施した予備的研究において、介入群児童の不安低減効果が保護者アンケートにより確認されました(Urao et al., 2016)。また、その後の小学校におけるユニバーサルレベルの実践においても、統制群に比べて有意な不安低減効果が示されています(Urao et al., 2018)。更に、日本の学校現場で活用しやすく且つ効果的なプログラムのあり方を検討するため、朝学活(朝自習)の時間帯を用いた場合の介入効果についても検討し、介入群児童の不安スコアが統制群児童に比べて有意に低減するという結果が得られました(Urao et al., in preparation)。

以上のような結果を受け、現在は、小中学校教諭、養護教諭、スクールカウンセラーを対象に、小学校高学年向けの不安の認知行動療法プログラム「勇者の旅」の指導者養成研修会(6時間ワークショップ)を定期開催し、「勇者の旅」プログラムの指導者を養成すると共に、県内・県外の小中学校において、指導者養成研修を終えた教員による実践と効果検証研究を進めています。

2) 文部科学省委託事業「子どもみんなプロジェクト」を通じた教育委員会との連携と「勇者の旅」プログラムの社会実装

子どもみんなプロジェクトは、文部科学省委託事業として平成27年度よりスタートしたプロジェクトで、不登校やいじめなどの子どもの問題を、こころの発達の科学的な視点から解決する、子どもと先生を支える全員参加のプロジェクトです。子どものこころの発達に関する専門家(研究者)が所属する全国10大学がコンソーシアムを作り、各地域の教育委員会と密な連携を図りながら、子どもの心理特性に関する調査及び各種介入プログラムの開発と実施を進めています。我々は、このプロジェクトを通じて、千葉県教育委員会・千葉市教育委員会・柏市教育委員会・館山市教育委員会・鳥取県教育委員会・京都府井手町教育委員会・埼玉県吉川市教育委員会・福岡県八女市教育委員会等と連携を図りながら、「勇者の旅」プログラムの社会実装に取り組んでいます。

スタッフ一覧

清水 栄司／EIJI SHIMIZU

肩書等	センター長
兼務先	千葉大学大学院医学研究院 認知行動生理学 教授 千葉大学医学部附属病院 認知行動療法センター長 放射線医学総合研究所 客員協力研究員
免許・所属等	M. D.、Ph. D.、公認心理師
着任日	平成 23 年 4 月 1 日

認知行動療法学部門

中川 彰子／AKIKO NAKAGAWA

肩書等	教授、副センター長
兼務先	—
免許・所属等	M. D.、Ph. D.
着任日	平成 24 年 3 月 1 日

伊藤 絵美／EMI ITO

肩書等	特任准教授
兼務先	洗足ストレスコーピング・サポートオフィス
免許・所属等	Ph. D.、臨床心理士、精神保健福祉士、公認心理師
着任日	平成 23 年 10 月 1 日

浅野 憲一／KENICHI ASANO

肩書等	特任講師
兼務先	—
免許・所属等	Ph. D.、臨床心理士
着任日	平成 24 年 4 月 1 日

沼田 法子／NORIKO NUMATA

肩書等	特任助教
兼務先	—
免許・所属等	Ph. D.、看護師、公認心理師
着任日	平成 27 年 6 月 1 日

土屋垣内 晶／AKI TSUCHIYAGAITO

肩書等	特任助教
兼務先	海外特別研究員
免許・所属等	Ph. D.、臨床心理士、公認心理師
着任日	平成 28 年 5 月 1 日

認知行動脳科学部門

平野 好幸／YOSHIYUKI HIRANO

肩書等	教授、連合小児発達学研究科（千葉校）副研究科長
兼務先	放射線医学総合研究所 客員協力研究員
免許・所属等	Ph. D.
着任日	平成 23 年 6 月 1 日

松澤 大輔／DAISUKE MATSUZAWA

肩書等	特任准教授
兼務先	—
免許・所属等	M. D.、Ph. D.
着任日	平成 23 年 4 月 1 日

久能 勝／MASARU KUNOU

肩書等	特任助教
兼務先	—
免許・所属等	M. D.、Ph. D.
着任日	平成 29 年 4 月 1 日

高橋 純平／JUMPEI TAKAHASHI

肩書等	特任助教
兼務先	—
免許・所属等	M. D.、公認心理師
着任日	平成 30 年 4 月 1 日

メンタルヘルス支援学部門

砂上 史子／FUMIKO SUNAGAMI

肩書等	兼任教授、副センター長
兼務先	千葉大学教育学部 教授
免許・所属等	M. D.、Ph. D.
着任日	平成 31 年 4 月 1 日

花澤 寿／HISASHI HANAZAWA

肩書等	兼任教授
兼務先	千葉大学教育学部養護教育講座 教授
免許・所属等	M. D.、Ph. D.
着任日	平成 24 年 4 月 1 日

後藤 弘子／HIROKO GOTO

肩書等	兼任教授
兼務先	千葉大学大学院専門法務研究科 教授
免許・所属等	
着任日	平成 25 年 12 月 1 日

若林 明雄／AKIO WAKABAYASHI

肩書等	兼任教授
兼務先	千葉大学文学部行動科学科心理学講座 教授
免許・所属等	Ph. D.
着任日	平成 27 年 4 月 1 日

杉田 克生／KATSUO SUGITA

肩書等	特任教授
兼務先	千葉市療育センター センター長
免許・所属等	M. D.、Ph. D.
着任日	平成 31 年 4 月 1 日

大溪 俊幸／TOSHIYUKI OTANI

肩書等	兼任准教授
兼務先	千葉大学総合安全衛生管理機構 准教授
免許・所属等	M. D.、Ph. D.、公認心理師
着任日	平成 24 年 10 月 1 日

大島 郁葉／FUMIYO OSHIMA

肩書等	講師
兼務先	—
免許・所属等	Ph. D.、臨床心理士
着任日	平成 23 年 4 月 1 日

浦尾 悠子／YUKO URAO

肩書等	特任助教
兼務先	—
免許・所属等	看護師、Ph. D.、公認心理師
着任日	平成 24 年 4 月 1 日

高岡 昂太／KOTA TAKAOKA

肩書等	特任助教
兼務先	—
免許・所属等	Ph. D.、臨床心理士
着任日	平成 29 年 4 月 1 日

客員教員

小島 隆行／TAKAYUKI OBATA

肩書等	客員教授
兼務先	国立研究開発法人量子科学技術研究開発機構放射線医学総合研究所分子イメージング診断治療研究部次長、医工連携画像研究グループグループリーダー
免許・所属等	M. D.、Ph. D.
着任日	平成 23 年 6 月 1 日

玉井 日出夫／HIDEO TAMAI

肩書等	客員教授
兼務先	浜松医科大学客員教授、武庫川女子大学教育研究所客員教授
免許・所属等	—
着任日	令和2年1月1日

チョーケ オールソン ノーラ ヴァレリア／Choque Olsson Nora Valeria

肩書等	客員研究員
兼務先	カロリンスカ研究所
免許・所属等	臨床心理士国家資格（スウェーデン）
着任日	平成29年4月1日

吉崎 亜里香／ARIKA YOSHIZAKI

肩書等	客員研究員
兼務先	大阪大学大学院連合小児発達学研究科附属子どものこころの分子統御機構研究センター・特任助教
免許・所属等	臨床心理士
着任日	平成29年4月1日

野田 義和／YOSHIKAZU NODA

肩書等	客員研究員
兼務先	帝京科学大学 講師
免許・所属等	看護師、Ph. D.
着任日	平成30年4月1日

佐々 毅／TAKESHI SASSA

肩書等	客員研究員
兼務先	医療法人静和会新検見川メンタルクリニック
免許・所属等	M. D.、Ph. D.
着任日	平成31年4月1日

猿渡 正利／MASATOSHI SARUWATARI

肩書等	客員研究員
兼務先	—
免許・所属等	—
着任日	平成31年4月1日

齋藤 順一／JUNICHI SAITO

肩書等	客員研究員
兼務先	—
免許・所属等	臨床心理士
着任日	平成31年4月1日

仁田 雄介／YUSUKE NITTA

肩書等	客員研究員
兼務先	日本学術振興会特別研究員(DC)
免許・所属等	臨床心理士、公認心理師
着任日	平成31年4月1日

藤原 和政／KAZUMASA FUJIWARA

肩書等	客員研究員
兼務先	—
免許・所属等	公認心理師
着任日	令和2年1月1日

特任研究員

荒井 穂菜美／HONAMI ARAI (日本学術振興会特別研究員(PD))
荒木 謙太郎／KENTARO ARAKI
井原 祐子／YUKO IHARA
伊吹 英恵／HANAЕ IBUKI
岩間 由衣／YUI IWAMA (グローバルプロミネント研究基幹所属)
大城 恵子／KEIKO OSHIRO
大平 育世／IKUYO OHIRA (グローバルプロミネント研究基幹所属)
岡本 洋子／YOKO OKAMOTO
鎌倉 摩伊子／MAIKO KAMAKURA
加藤 奈子／NAOKO KATO
沓澤 夏菜／KANA KUTSUZAWA (グローバルプロミネント研究基幹所属)
小池 春菜／HARUNA KOIKE
小柴 孝子／TAKAKO KOSHIBA
齋藤 由美／YUMI SAITO
笹井 崇司／TAKASHI SASAI
瀬戸 美紅子／MIKUKO SETO
高梨 利恵子／RIEKO TAKANASHI (グローバルプロミネント研究基幹所属)
田口 佳代子／KAYOKO TAGUCHI
田中 麻里／MARI TANAKA
永岡 麻貴／MAKI NAGAOKA
永田 忍／SHINOBU NAGATA
二瓶 正登／MASATO NIHEI
野口 玲美／REMI NOGUCHI
海地 伊沙名／ISANA KAICHI (グローバルプロミネント研究基幹所属)
濱谷 沙世／SAYO HAMATANI (日本学術振興会特別研究員(PD))
平松 洋一／YOICHI HIRAMATSU
本郷 美奈子／MINAKO HONGO

松本 一記／KAZUKI MATSUMOTO
南谷 則子／NORIKO MINAMITANI
村田 倫一／TOMOKAZU MURATA
吉田 斎子／TOKIKO YOSHIDA
ブーサル チャタクリ リトゥ／BHUSAL CHHATKULI RITU

技術補佐員

諏訪部 洋子／HIROKO SUWABE
大内 知子／TOMOKO OHUCHI
太田 広江／HIROE OTA
北川 等美／HITOMI KITAGAWA

事務補佐員

田中 純子／JUNKO TANAKA
中村 慶子／KEIKO NAKAMURA
砂長谷 直美／NAOMI SUNAHASE
山村 寿子／TOSHIKO YAMAMURA
村瀬 恵／MEGUMI MURASE

連合小児発達学研究所 博士課程

加藤 起運／KIUN KATOU
大平 育世／IKUYO OHIRA
大久保 千恵／CHIE OKUBO
大森 露恵／FUKIE OMORI
大川 翔／SHO OKAWA
川崎 知美／TOMOMI KAWASAKI
北村 大明／HIROAKI KITAMURA
本郷 美奈子／MINAKO HONGO
岩間 由衣／YUI IWAMA
河崎 智子／TOMOKO KAWASAKI
松本 浩一／HIROKAZU MATSUMOTO
富川 直子／NAOKO TOMIKAWA (研究生)

研究活動報告

認知行動療法学部門

当部門では、英国の IAPT に倣い、我が国では唯一の認知行動療法（CBT）を実施できる治療者を養成する CBT 研修コースを設け、うつ、不安症、強迫症、摂食障害、慢性疼痛等の精神科疾患の治療効果研究をおこなうと同時に、治療前後での脳機能変化等の生物学的研究を検討することにより、それらの疾患の病態生理の解明に寄与している。千葉認知行動療法士コースは、2010 年 4 月より千葉県内外の医療機関から募集した医療関係者を対象に発足し、2020 年 3 月までに 9 期合計 91 名（医師 12 名、看護師 12 名、精神保健福祉士 9 名、臨床心理士 44 名、薬剤師 2 名、言語聴覚士 2 名、作業療法士 1 名、養護教諭 2 名、産業カウンセラー 3 名、発達心理士 3 名、その他 1 名）が研修を修了している。

上記の研修コースの研修生、修了生を中心としたセラピストが、社交不安症、パニック症、強迫症、摂食障害、うつ病、慢性疼痛等において、効果研究を含めた様々な臨床研究を行っており、各疾患の重症度スケールはそれぞれ認知行動療法により有意な改善を示している。2019 年度は、各疾患で遠隔認知行動療法やインターネットを用いるプログラムやアプリの開発も進められ、成果が蓄積されてきている。主な研究結果を下記に紹介する。

<不安症、強迫症へのテレビ会議システムによる遠隔認知行動療法の有効性の検討>

昨年度は遠隔地あるいは外出が困難な強迫症・パニック症・社交不安症患者への新たな治療の選択肢として、安価で特別な機器を必要としないテレビ会議システムを用いて、医療機関と患者宅をつなぐ遠隔での認知行動療法の実現可能性と安全性を検証したが、2019 年度は、上記の遠隔 CBT 治療における予後予測因子を検討した。その結果、この 3 疾患において、患者が治療者とどの程度治療のゴール、方向性を一致出来ていると治療の中間点で思っているか（working alliance inventory:WAI の得点から）が、治療予後を予測することが示唆された。

（論文発表）

Matsumoto K, Yoshida T, Hamatani S, Sutoh C, Hirano Y, Shimizu E. Prognosis Prediction Using Therapeutic Agreement of Video Conference-Delivered Cognitive Behavioral Therapy: Retrospective Secondary Analysis of a Single-Arm Pilot Trial. JMIR Mental Health, 2019; 6(11): e15747. 査読有. 2019/11/15.

パニック障害では、上記の遠隔 CBT の研究開始後、2017 年 11 月から薬物療法後も症状が残っているパニック症患者を対象とした遠隔認知行動療法のランダム化比較試験を開始し、2020 年 3 月で終了した(研究参加者 30 名)。通常診療単独（TAU）群（n=15）と通常診療+認知行動療法併用（COMB）群（n=15）の 2 群として、それぞれ開始 16 週間後にパニック障害重症度評価尺度（PDSS）によって評価を行った。分析の結果、TAU 群に比して、COMB 群は PDSS の値が有意に低減していた（ $p<0.001$ ）。また QOL の指標である EQ-5D-5L で COMB 群に有意な改善が認められた（ $p<0.01$ ）。薬物療法を受けても十分な改善を示さないパニック症患者に対して遠隔での認知行動

療法が有効であることを明らかにし、薬物療法に代わる治療選択の機会および外出が困難な患者への治療の機会増大の可能性を見出した。(論文投稿準備中)

強迫症においては、上記の成人の遠隔 CBT の研究の開始後、児童思春期の強迫症患者にも遠隔 CBT の有効性を検討する研究を開始した。成人の強迫においてもそうであるが、児童・思春期においては、専門的な医療機関が少なく、認知行動療法を受けられる機会がさらに限られている。また、そのような医療機関が近隣にあったとしても、強迫症状のために外出が困難だったり、学校に登校できている場合には平日の受診が困難であったりするために、治療を受けることが難しいという問題がある。児童思春期の強迫症患者に対し、テレビ電話による認知行動療法が提供できれば、このような問題を解消できる可能性がある。これらのことから、10～17歳の児童思春期強迫症に対し、テレビ電話を用いた認知行動療法のランダム化比較試験を行っている。主要評価項目は CY-BOCS (Children's Yale-Brown Obsessive Compulsive Scale) である。治療群は、テレビ電話による毎週 1 回 50 分の認知行動療法セッションを全 16 回行い、0 週目、8 週目、16 週目の CY-BOCS を独立評価者が評定して、通常治療群と比較をする。事前に自閉スペクトラム併存の有無を精査し、割付調整因子としている。自閉スペクトラムの併存例に認知行動療法を行う時には、ケースごとに自閉特性に対応しながら治療を進めている。2020 年 3 月までに 10 例がエントリーをしており、翌年度も被験者のリクルートと研究実施を継続していく予定である。この他にも、成人および児童・思春期の強迫症における自閉スペクトラム症併存例の認知行動療法についての研究を継続して行っている。また、絶対的に不足している強迫症の認知行動療法の治療者の数を増やすための、遠隔スーパービジョンの効果を検討する研究を今年度より開始した。対象は専門学会で開催している強迫症の認知行動療法の研修会の参加者で SV を希望した者が中心で、3 年間で 20 名の SV を行い、現在の治療マニュアルを書籍化する際に役立てることも目的としている。

(学会発表)

久能勝, 中川彰子. 自閉スペクトラム症を併存する児童強迫症の特徴と認知行動療法の効果. 第 60 回児童青年精神医学会総会. 沖縄コンベンションセンター, 沖縄. 2019/12/05-07.

遠隔認知行動療法の有効性の研究の他、社交不安症では介入法としてのイメージの書き直しの技法を用いることによる効果研究を行ってきている。ネガティブな社交場面での記憶をイメージ上で書き直す新たな技法であるイメージ書き直し (Imagery rescripting; IR) が、患者にどのように体験されているかをテーマティック・アナリシス法を用いて質的に検証した。IR を含む 16 セッションからなる認知行動療法を受けた 25 名の社交不安症患者に対し、IR による社交不安、記憶や関連するイメージの辛さなどの改善に関して効果を確かめたうえで、IR セッションがどのように体験されたか自由記述で回答を求める質問紙を行った。結果は「IR のプロセス」と「IR の結果」の 2

つのテーマに分類され、IR はプロセスの中でネガティブな感情を体験しうるが、多くの患者が IR を効果的であると体験していることが示された。下記の論文を発表した。

(論文発表)

Takanashi R, Yoshinaga N, Oshiro K, Matsuki S, Tanaka M, Ibuki H, Ohshima F, Urao Y, Matuzawa D, and Shimizu E. Patients' perspectives on imagery rescripting for aversive memories in social anxiety disorder. *Behavioural and Cognitive Psychotherapy*. doi:10.1017/S1352465819000493. 2019/09/17.

<摂食障害>

神経性大食症においては、H31年4月から、テレビ電話を用いた遠隔認知行動療法の介入効果を検証するために、対照群を設けた非盲検ランダム化比較試験を行っている。

英国のモーズレイモデル「過食症サバイバルキット」に基づき、千葉大学で作成したマニュアルを用いて、1回50分のセッションを週1回のペースで16~20セッションを実施している。H29年10月からH31年3月まで実施した、同様のマニュアルを用いたテレビ電話を用いた遠隔の認知行動療法を県内外の7名に対して行い、安全性と有効性についての結果を論文発表した。

並行して、認知行動療法の適応とならない神経性やせ症においては、認知機能改善療法を1回50分週1回ペースで10回提供している。認知機能改善療法は、神経性やせ症の症状維持に関与しているとされる認知の柔軟性の障害と全体統合性の脆弱性をターゲットとした神経心理学的介入法で、今後も引き続き効果検証を進めていく予定である。

(学会発表)

Effectiveness of cognitive remediation therapy in outpatients with anorexia nervosa in Japan. Noriko Numata, Michiko Nakazato, Eiji Shimizu. 50th EABCT(European Association for Behavioral and Cognitive Therapies). Athens Greece.2020

(論文発表)

Hamatani S, Numata N, Matsumoto K, Sutoh C, Ibuki H, Oshiro K, Tanaka M, Setsu R, Kawasaki Y, Hirano Y, Shimizu E. Internet-Based Cognitive Behavioral Therapy via Videoconference for Patients With Bulimia Nervosa and Binge-Eating Disorder: Pilot Prospective Single-Arm Feasibility Trial. *JMIR Form Res*. 2019, 23;3(4):e15738.

<うつ病>

慢性うつ病に対する臨床研究を継続している。「うつ病」との診断で3年以上治療を受けるも寛解しない当事者に対する RCT として、①スキーマ療法群(月に2度のセラピーセッション)と②電話モニタリング群(月に1度の短時間の電話セッション)に割り付け、2年間参加してもらおう研究計画である。パーソナリティ障害にエビデンスのあるスキーマ療法の慢性うつ病に対する治療効果と費用対効果を検証するのがこの RCT の目的である。2020年3月現在、13ケースが終結し、20ケースが稼働中である。

<慢性疼痛>

2018年度より先行のシングルアーム試験のマニュアルを元に、慢性疼痛のためのオンラインで行える遠隔認知行動療法の有効性の検証および医療経済効果評価をランダム化比較試験(RCT)により検証した。RCTの通常診療群を対象としたレスキュー試験もあわせ、一連の慢性疼痛の基本プロトコル開発に関するパイロット試験は2020年3月までにほぼ終了している(シングルアーム試験16名、RCT31名)。レスキュー試験11名は2020年の9月に終了予定である。

慢性疼痛治療の介入は全て、週1回50分、合計16回のセッションであり、従来の認知行動療法に注意シフト、メンタルプラクティス、イメージ書き換え、メモリーワークといった新しいセッションを追加したプログラムを採用している。パイロット試験の結果、対面のシングルアーム試験では痛みの強度に有意な変化はみられなかったものの、破局的認知、日常生活障害度、抑うつ、不安のいずれにおいても有意な改善が見られた。またRCTによるオンラインCBTでの検証においては日常生活障害度や疼痛の包括的評価(BPIによる痛みの強度と干渉の統合値)で通常診療と比較して有意に改善することが示された。また増分費用対効果比(ICER)を利用した医療経済分析において、通常診療よりもオンラインCBTの費用対効果が高いことが示唆された。これらのパイロット試験は、CBTによる維持効果の検証のためフォローアップ研究を実施予定である。

今後、より有効な慢性疼痛に対するCBTプロトコルを追求していくため、痛みの種類や各セッションに着目した、各論的な研究を進めていく予定である。

(学会発表)

田口佳代子, 清水栄治, 名越泰秀, 井上雅之 慢性疼痛の集学的治療にむけて-薬物療法, 運動療法, 認知行動療法の最新の知見からの検討- 日本認知・行動療法学会第45回大会. 名古屋 2019年8月30日-9月1日

田口佳代子, 吉田斎子 ドクターショッピングを続ける70代慢性疼痛患者に対する認知行動療法の効果 日本認知・行動療法学会第45回大会. 名古屋

<物質関連障害>

当部門では覚せい剤事犯当事者に対する再犯予防および社会復帰支援のための認知行動療法の効果についての検討を行っている。覚せい剤事犯で仮釈放となった、もしくは保護観察付の執行猶予となった女性で、渋谷区にある更生保護施設である更生保護法人両全会が受け入れを認めた者を対象に、保護観察期間中の覚せい剤事犯当事者の保護観察終了後、社会復帰後も継続できる、再犯予防を目的とした中期～長期的な援助を行うために、認知行動療法を用いた中～長期的治療プロトコルの開発と提供、実施をし、その効果を検討中である。プログラムは2012年9月に開始され、2020年3月までに45ケースすべてが終了している。現在、データを解析中であり、論文化する予定である。

(論文発表)

大澤ちひろ・伊藤絵美・三浦文華・風岡公美子・伴恵理子・小畑輝海・松本俊彦, 2019, 更生保護施設における女性覚せい剤乱用者の心理社会的特徴—ローズカフェ・プログラム第2報—, 日本アルコール・薬物医学会雑誌, 第54巻第3号, 136-155.

認知行動脳科学部門

本部門は、「子どものための非侵襲的検査の開発」および「脳画像検査、神経生理学検査および認知機能検査を用いた認知行動療法の作用機序の解明」のために、形態学的MRI、拡散テンソル画像（DTI）、機能的MRI（fMRI）、脳波、注視点検出装置、および認知機能検査などの非侵襲的な手法を用いて、精神疾患においてみられる脳機能の変化と、脳神経回路における認知行動療法の影響を調べるために以下の研究を行った。

強迫症における皮質および皮質下領域の側性に関する研究

本年度はうつ病、社交不安症、強迫症、パニック症、全般不安症、摂食障害等の患者および、閾値下不安者、健康者からMRI脳画像、臨床症状や心理検査データを取得し、疾患特異性の探索を行った。国際共同研究において、既存データの解析により小児期と成人期の強迫症の皮質・皮質下領域の非対称性についての論文が国際英文誌に受理された。小児期では世界16データセットで撮像された強迫症患者501名と健常者439名、成人期では30データセットの強迫症患者1777名、健常者1654名のT1強調画像を用い、ENIGMAの調和解析プロトコルと品質管理プロトコルにより、皮質・皮質下領域の左右半球の非対称性指数を求め群間で比較した。小児期強迫症において、視床は左半球が、淡蒼球は左半球が大きい（ $d=0.19, 0.21$ ）。一方、成人期強迫症においては、皮質・皮質下領域において左右半球間に有意な体積差は見いだされなかった。これらの結果は、強迫症の小児期における神経発達プロセスの変化を示唆している。

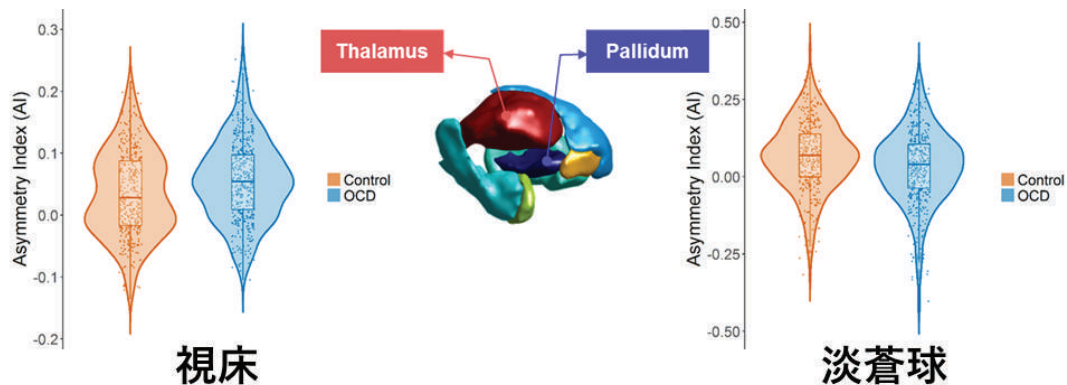


図. 小児期の強迫症において、視床は左有意性が強いが、淡蒼球は弱かった（ $d=0.19, 0.21$ ）。成人期では左右半球間に有意な体積差はみられなかった。

脳画像研究の成果は、以下の学術誌および学術集会で発表した。

Kong et al., Biol Psychiatry, in press

Kurayama et al., Neuroreport, 2019;30:468-472

平野, 行動科学, 2019;57:89-95

平野ら, 子どものこころと脳の発達, 2019;10:90-99

Soriano-Mas et al., The First European Congress on Clinical Psychology and Psychological Treatment of EACLIP

Bertolin Triquell et al., 32nd European College of Neuropsychopharmacology (ECNP) Congress

Ikoma et al., 29th International Symposium on Cerebral Blood Flow, Metabolism and Function (ISCBFM) and 14th International Symposium Conference on Quantification of Brain Function with PET (Brain & Brain PET 2019)

Kong et al., 2019 Organization for Human Brain Mapping (OHBM) Annual Meeting

平野ら, 第7回心身医学のニューロサイエンス研究会

関口ら, 第23回日本摂食障害学会学術集会

大田ら, 第47回日本放射線技術学会秋季学術大会

影山ら, 第47回日本磁気共鳴医学会大会

城谷ら, 第47回日本磁気共鳴医学会大会

認知機能検査や注視点検出を利用した脳機能研究

社交不安症や強迫症など不安関連疾患では認知機能の低下が報告されているが、特定の認知機能では、十分な報告がなく一定の見解が得られていない。本年度は、それぞれの疾患で複数の認知機能に焦点を当てて検討を試みた。社交不安症では、レイの複雑図形検査 (Rey Complex Figure Test; RCFT)、Trail Making Test (TMT) を実施し、中枢性統合と実行機能について考察した。社交不安症では健常対照者と比較して中枢性統合が低かった。TMTでは、視覚的探索は低下していたが、実行機能には有意な低下は認められなかった。また、強迫症に対しては、ウェクスラー成人知能検査 (WAIS-III)、Y-BOCS、自閉スペクトラム指数 (AQ)、こころとからだの質問票 (PHQ-9) から認知行動療法の治療成績に影響を与える指標を同定を試みた。重回帰分析の結果、AQの下位尺度であるコミュニケーションとWAIS-IIIの数唱が治療応答を予測したことから、ワーキングメモリーとコミュニケーション能力の低下が認知行動療法の応答に関与していることが示唆された。注視点検出を利用した研究では、自閉スペクトラム症は、視線が合いにくい、反復的な視覚パターンに強い関心がある、ヒトの動きや感情を暗示するものの動きや共同注視への反応の弱さといった特徴があることから、注視点検出技術を利用して、社会的情報への視覚的注意を測定し、情緒的問題との関連性を検討した。

社交不安症と強迫症の認知機能、強迫症の尺度開発、社会的情報に対する注視点解析、に関する心理学的研究成果は、以下の学術誌および学術集会で発表した。

Noda et al., Disaster Med Public Health Prep, 2019;13:309-318

Koike et al., Curr Psychol, 2020;39:89-95

Murata et al., BMC Res Notes

佐藤ら, RIETI Discussion Paper Series, 2020;20-J-019

大溪ら, CAMPUS HEALTH 2019;56:410-2

Fujioka et al. 7th World Congress of Asian Psychiatry

Araki et al., Academy of Aphasia 57th Annual Meeting

Okawa et al., 9th World Congress of Behavioural and Cognitive Therapies (WCBCT)

Hamatani et al., 9th World Congress of Behavioural and Cognitive Therapies (WCBCT)

濱谷ら, 第23回日本摂食障害学会学術集会

メンタルヘルス支援学部門

1. ASDの自己理解に基づく対処方略の構築：ASDのメタ認知的制御を目的としたACATの開発

ASDの診断に基づき適切な対処方略を手に入れるためには、自身の持つASD特性およびそれに関連する不適応感のモニタリング、不適応感を解消するための計画的対処の構築が必須となる。このプロセスにはメタ認知的モニタリングおよびメタ認知的制御が必要となる。メタ認知的モニタリングとは、自分自身の認知プロセスについて気づくことである。メタ認知的制御とは、モニタリングをもとに、課題達成を計画する認知的プロセスを指す。これらのメタ認知を増強するために、我々は、認知行動療法（Cognitive behavioral therapy; CBT）を用いることが有用ではないかと考えた。CBTは構造化され視覚的支援を多用する技法であることから、ASD特性からくる困り感を外在化/メタ認知でき、今まで介入文脈が作りにくいASD特性からくる問題の理解に役立つのではないかと我々は想定した（図2）。さらにCBTは問題解決型の心理療法であることから、ASDの心理教育でASD特性のメタ認知的モニタリングが増強され、その後、メタ認知的コントロールを通し、問題解決に役立つのではないかと想定した。この点においてACATはPEGASUSが内包するメタ認知的モニタリングに加えて、メタ認知的コントロールをも獲得できるプログラムとして仮定した（図3）。さらに、ASDの養育者が、ASDの知識と子どもの「ASDの特性」の理解を得ることで、養育者のスティグマの低減や養育レジリエンスの増強を想定した。これらの想定をもとに、我々は、児童思春期のASD患者およびその養育者を対象に、CBTを用いた自己理解に基づく対処方略の構築を目的とした『ASDに気づいてケアするプログラム（Aware and Care for my Autistic Traits ; ACAT）』を開発した。ACATとPEGASUSの共通項および差異を図2に示した。

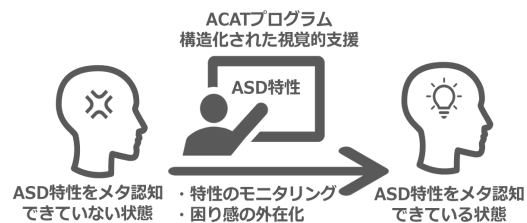


図1 ASD特性に対するメタ認知を獲得するプロセス



図2 ACATとPEGASUSの治療構造の共通項および差異

ACAT の治療構造およびパイロット・ランダム化比較試験 (RCT) の結果と課題

ACAT は、①メタ認知的モニタリング・外在化の手法を用いて ASD の特性を理解し、②CBT モデルを用いて ASD の特性に関連する不適応に気づき、③メタ認知的制御を用いて、適応行動につながる対処方略の計画を立て、実行する、という 3 段階の治療構造とした (図 3)。



図 3 ACAT の治療構造

大島らは、2017 年に ACAT を開発し、現在までに福島大学と共同してパイロット RCT を行っている。

2.子どもの不安への対処力を養う「勇者の旅」プログラムの実践と効果検証

我々は、平成 28 年度より文部科学省委託事業「子どもみんなプロジェクト」に参画し、千葉県教育委員会、千葉市教育委員会、柏市教育委員会、館山市教育委員会、鳥取県教育委員会、福岡県八女市教育委員会、埼玉県吉川市教育委員会、京都府井手町教育委員会等と連携しつつ、学校現場での「勇者の旅」の実践及び効果検証研究に取り組んできた。委託事業の最終年度である平成 31 年度は、1)小学生対象の大規模追試研究の論文化 2)中学生対象の pilot study の結果公表 3)通信制高校生対象の予備的研究の論文化 を行うとともに、引き続き 4)社会実装に伴う追試研究 に取り組んだので、その内容を以下に報告する。

1) 小学生対象の大規模追試研究の論文化

平成 30 年度に先行研究の追試研究を実施しており、令和元年度にその結果を解析した。計 24 の小学校で「勇者の旅」プログラムが実施され、SCAS (スペンス児童不安尺度) にて介入効果を解析した結果、介入群(n=904)の SCAS 平均スコアは、統制群(n=439)と比較して 1-3 カ月のフォローアップで有意に減少した。ベースラインから 1-3 ヶ月のフォローアップまでの SCAS スコアの群間差は 3.251(95%CI 1.726-4.777, $p < .0001$)であった (図 4)。以上の結果より、1 日 6 時間の指導者養成研修会を受講した教師 (教諭、養護教諭等) が小学校 5~6 年生の学級にて「勇者の旅」の授業を実施することにより、プログラム実施学級児童の不安スコアが非実施学級児童に比べ有意に低減することが、

再び確認された。現在、結果の公表へ向けて論文化を進めている(Kaichi et al., in preparation)。

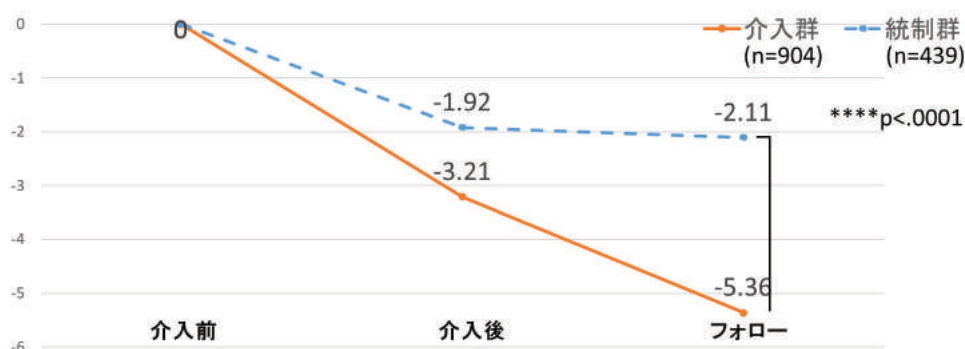


図4 追試研究における SCAS スコアの変化

文献：濱田伊沙名，浦尾悠子，清水栄司．日本の小学生に対する認知行動療法に基づく不安予防プログラム：準実験的追試研究．（千葉大学大学院医学薬学府 令和元年度修士論文）

2) 中学生対象のパイロットスタディの結果公表

平成 29 年度に「勇者の旅」プログラムの実施を希望した中学校 2 校の中学 1 年生 149 名（介入群）、2 年生 89 名（統制群）を対象とし、教師による介入（7 回の授業）および、質問紙調査（SCAS 日本語版）を計 3 回実施した(Ohira et al., 2019)。

中途脱落したクラスがなく、年度内に全ての授業が実施されたことから、本プログラムの中学校での実用可能性は一部確認されたと考える。一方、反復測定混合効果モデルを用いた統計解析の結果、介入群と統制群との比較において不安スコアの有意な変化は示されなかった（表 1）。今後は中学生の発達段階を踏まえたワークブックの改訂や、十分なサンプルサイズによる有効性検証のための試験を実施する予定である。

表 1 SCAS スコアのベースライン変化

Intervention (n= 149)			Control (n= 89)			Baseline change	
pre	post	FU	pre	post	FU	Post	FU
21.24 (18.88-23 .60)	19.21 (16.85-21 .56)	18.86 (16.49-21 .23)	17.40 (14.39-20 .42)	17.21 (14.20-20 .21)	15.31 (12.30-18 .32)	-0.71 -2.48 to 1.06	-0.49 -2.60 to 1.61

文献：Ohira I, Urao Y, Sato Y, Ohtani T, Shimizu E. A pilot and feasibility study of a cognitive behavioural therapy-based anxiety prevention programme for junior high school students in Japan: a quasi-experimental study. Child Adolesc Psychiatry Ment Health. 2019;13:40.

3) 通信制高校生対象の予備的研究の論文化

A)通信制高校に在籍する生徒 228 名を対象とし、そのうち B)市学習センターに在籍する生徒 109 名を介入群、C)市学習センターに在籍する生徒 119 名を対照群とした。介入群生徒に対して担任教師が「勇者の旅」プログラムを月 1 回 40 分、計 6 回を実施し、その間、対照群の生徒は通常の授業を受けた。介入前後と 4 か月後フォローアップ時点の計 3 回、両群の生徒に対し、スペンス児童不安尺度(SCAS)を用いた調査を実施した。

介入前の SCAS に回答した 228 名の参加者のうち、1 回以上授業に参加した介入群 89 名と、対照群 114 名を解析対象集団として解析を行ったところ、SCAS スコアの群間差は-2.099 (95%CI -7.917 to 3.719, $p = .475$)と減少していたものの、対照群との比較において有意な変化は見られなかった。また、4 回以上授業に参加した介入群 69 名と、対照群 114 名を解析対象集団としたサブグループ解析についても、SCAS スコアの群間差は-2.499 (95%CI -8.268 to 3.271, $p = .392$)であり、対照群と比較して有意な変化は見られなかった。現在、結果の公表へ向けて論文化を進めている(大下ら、投稿準備中)。

文献：大下恵美子，浦尾悠子，清水栄司．通信制高校における認知行動療法に基づく不安予防プログラムの実施可能性研究(千葉大学大学院医学薬学府 令和元年度修士論文)

3) 社会実装に伴う追試研究

平成 31 年度は、「勇者の旅」実践応募校は計 42 校となり、プログラム実施学級児童生徒 2625 名、非実施学級児童生徒 2562 名が本研究に参加することとなった(表 3)。「勇者の旅」の実践協力校に所属する教職員等を対象とした指導者養成研修会(6 時間ワークショップ)と、それに関連する研修会を表 2 の通り開催し、新たに約 200 名の指導者を養成した。続いて、令和元年 9 月から令和 2 年 3 月にかけて、各地域の実践協力校にて、担任教師や養護教諭等による「勇者の旅」の授業実践が行われた。しかし、年度末には新型コロナウイルス感染拡大による影響から、授業実践が不可能となった学校や、フォローアップのアンケートが実施できない学校などが多く出現した。このため、次年度に追試研究としてデータ分析を行う対象者数は、研究参加児童生徒数に比べて大幅に少なくなることが予想されている。なお、プログラム実施後のデータ集約及びデータ固定が令和 2 年度にかかるため、平成 31 年度の解析結果は令和 2 年度の報告書にて報告する予定である。

表2 令和元年度「勇者の旅」に関する研修会等

日付	タイトル	イベント名	会場等
令和元年 7月9日	子どものこころ、親の想い	香取市立小見川西小学校 教育ミニ集会講演会	小見川西小学校 体育館
令和元年 7月31日	子どもの不安への対処力を育てる	千葉県教育センター令和元年度夏期専門研修	千葉県教育会館
令和元年 7月29日	不安への対処力を養う 認知行動療法の授業実践	子どもみんなプロジェクト in 千葉・学校認知行動療法研修会 6時間WS	千葉大学亥鼻キャンパス
令和元年 8月2日	子どもの不安の問題とその対応～認知行動療法を活用した予防アプローチ	令和元年度かほく市教育講演会	西田幾多郎記念 哲学館哲学ホール
令和元年 8月5日	健康教育Ⅰー保健室での認知行動療法の実践ー	千葉県教育センター主催・千葉市養護教諭研修会	千葉県教育会館 大ホール
令和元年 8月6日	子どもたちの『心の体力』向上に向けた支援のあり方について	東松島市学校保健会研修会	矢本東市民センター
令和元年 8月20日	不安への対処力を養う 認知行動療法の授業実践	子どもみんなプロジェクト in 千葉・学校認知行動療法研修会 6時間WS	京都府井手町立 井手小学校
令和元年 8月22日	不安への対処力を養う 認知行動療法の授業実践	令和元年度安心・安全な学級づくりプロジェクト事業・「勇者の旅」プログラム指導者養成研修	鳥取県教育センター大研修室
令和元年 8月27日	不安への対処力を養う 認知行動療法の授業実践	平成30年度教員免許状更新講習、学校認知行動療法研修会 6時間WS	千葉敬愛短期大学
令和元年 8月29日	不安への対処力を養う 認知行動療法の授業実践	子どもみんなプロジェクト in 千葉・学校認知行動療法研修会 6時間WS	柏市立柏中学校
令和元年 9月25日	子どもの不安の解消法～認知行動療法の視点から～	令和元年度カウンセラー教員養成研修講座・不登校教育相談研修講座	石川県教員総合 研修センター
令和元年 12月26日	不安への対処力を養う 認知行動療法の授業実践	子どもみんなプロジェクト in 金沢・学校認知行動療法研修会 6時間WS	金沢大学

表3 令和元年度「勇者の旅」実践協力校一覧

No.	学 校 名	実践 学年	実践 学級 数	実践 児童 計	対照 学年	対照 学級 数	対照 児童 計	新規/ 継続
1	市川市立塩浜学園	5・7	3	83	4	1	25	継続
2	八千代市立大和田南小学校	6	4	128	—	—	—	新規
3	柏市立大津ヶ丘第二小学校	5・6	3	94	4、6	3	97	継続
4	柏市立中原小学校	6	3	115	5	3	119	新規
5	旭市立三川小学校	6	1	36	5	1	26	新規
6	館山市立船形小学校	5	1	23	4	1	13	継続
7	館山市立北条小学校	5	3	111	6	4	132	継続
8	館山市立西岬小学校	6	1	9	—	—	—	継続
9	館山市立房南小学校	6	1	21			25	継続
10	館山市立神余小学校	5・6	1	5	—	—	—	継続
11	館山市立豊房小学校	5・6	2	23	—	—	—	継続
12	館山市立第二中学校	1	3	95	2・3	6	195	新規
13	南房総市立富山小学校	5	1	36	6	2	41	新規
14	袖ヶ浦市立長浦小学校	6	3	92	5	3	101	新規
15	市原市立南総中学校	1	3	94	2	3	77	新規
16	木更津市立富来田小学校	5・6	2	65	—	—	65	新規
17	木更津市立富来田中学校	1	1	34	2	1	35	新規
18	木更津市立木更津第一中学校	1	3	101	2	4	121	新規
19	松戸市立矢切小学校	6	2	71	5	2	65	継続
20	松戸市立南部小学校	5.6	4	110	4	2		新規
21	松戸市立柿ノ木台小学校	6	4	142	5	3	114	新規
22	松戸市立小金小学校	5	3	106	4	4	123	新規
23	浦安市立明海小学校	5・6	4	100	4	2	56	新規
24	柏市立柏中学校	中1	4	137				新規
25	千葉市立花園中学校	1	7	259	2	7	268	新規
26	千葉大学教育学部附属小学校	5	4	111	6	4	109	新規
27	星槎名古屋中学校	1.2	6	133	3	3	75	新規
28	井手町立泉ヶ丘中学校	1.2	4	94	3	2	55	新規
29	井手町立井手小学校	5.6	6	68	4	2	36	新規
30	井出町立多賀小学校	5.6	2	33		4	9	新規
31	吉川市立北谷小学校	5	3	96	4	2	72	継続
32	吉川市立関小学校	5	3	121	6	4	150	新規
33	鳥取市立日進小学校	5	2	46	—	—	—	新規
34	鳥取市立米里小学校	5	1	28	4	1	29	新規
35	八女市立福島小学校	5	3	89	4	2	71	継続
36	八女市立上妻小学校	5	2	49	4	2	52	継続
37	八女市立岡山小学校	5	2	74	4	2	54	継続
38	八女市立忠見小学校	5	2	43	4	1	33	継続

No.	学 校 名	実践 学年	実践 学級 数	実践 児童 計	対照 学年	対照 学級 数	対照 児童 計	新規/ 継続
39	八女市立八幡小学校	5	1	21	4	1	18	継続
40	八女市立長峰小学校	5	2	60	6	2	72	新規
41	八女市立黒木西小学校	5	1	26	6	1	29	新規
42	八女市立三河小学校	5, 6	2	63	—	—	—	新規
	計			2625			2562	

表3 令和元年度「勇者の旅」研究成果報告

日付	タイトル	イベント名	会場等
令和元年 8月17日	認知行動療法プログラムの現在と展望「勇者の旅」の授業実践を通して（大会シンポジウム2）	日本学校心理士会 2019年度大会	聖徳大学
令和元年 11月30日	「発達障害の二次障害の予防—多（他）職種との連携」不安への介入（シンポジウム7）	第23回日本精神 保健・予防学会学 術集会	金沢市文化ホー ル
令和元年 12月5日	不安への対処力を養う「勇者の旅」プログラムの効果検証研究（浦尾悠子：口演）	第60回児童青年 精神医学会総会	沖縄コンベンシ ョンセンター
令和元年 12月5日	中学1年生を対象とする認知行動療法に基づく不安の予防教育プログラムの実用可能性に関するパイロットスタディ（大平育世：ポスター）	第60回児童青年 精神医学会総会	沖縄コンベンシ ョンセンター
令和2年 2月20日	子どもの不安への対処力を養う「勇者の旅」プログラムの効果とその実践	文部科学省委託事 業子どもみんなプ ロジェクト報告会	千葉大学亥鼻キ ャンパスあのは な記念講堂

業績

2019年業績

英語文献

原著論文

1. Yoshinaga N, Kubota K, Yoshimura K, Takanashi R, Ishida Y, Iyo M, Fukuda T, Shimizu E. Long-Term Effectiveness of Cognitive Therapy for Refractory Social Anxiety Disorder: One-Year Follow-Up of a Randomized Controlled Trial. *Psychother Psychosom.* 2019;88:244-246
2. Kong XZ, Boedhoe PSW, Abe Y, Alonso P, Ameis SH, Arnold PD, Assogna F, Baker JT, Batistuzzo MC, Benedetti F, Beucke JC, Bollettini I, Bose A, Brem S, Brennan BP, Buitelaar J, Calvo R, Cheng Y, Cho KIK, Dallasepezia S, Denys D, Ely BA, Feusner J, Fitzgerald KD, Fouche JP, Fridgeirsson EA, Glahn DC, Gruner P, Gürsel DA, Hauser TU, Hirano Y, Hoexter MQ, Hu H, Huyser C, James A, Jaspers-Fayer F, Kathmann N, Kaufmann C, Koch K, Kuno M, Kvale G, Kwon JS, Lazaro L, Liu Y, Lochner C, Marques P, Marsh R, Martínez-Zalacaín I, Mataix-Cols D, Medland SE, Menchón JM, Minuzzi L, Moreira PS, Morer A, Morgado P, Nakagawa A, Nakamae T, Nakao T, Narayanaswamy JC, Nurmi EL, O'Neill J, Pariente JC, Perriello C, Piacentini J, Piras F, Pittenger C, Reddy YCJ, Rus-Oswald OG, Sakai Y, Sato JR, Schmaal L, Simpson HB, Soreni N, Soriano-Mas C, Spalletta G, Stern ER, Stevens MC, Stewart SE, Szeszko PR, Tolin DF, Aki Tsuchiyagaito A, van Rooij D, GA, Venkatasubramanian G, Wang Z, Yun JY, ENIGMA OCD Working Group, Thompson PM, Stein DJ, van den Heuvel OA, Francks C. Mapping Cortical and Subcortical Asymmetry in Obsessive-Compulsive Disorder: Findings from the ENIGMA Consortium. *Biol Psychiatry.* in press
3. Sato D, Yoshinaga N, Nagai E, Nagai K, Shimizu E. Effectiveness of Internet-Delivered Computerized Cognitive Behavioral Therapy for Patients With Insomnia Who Remain Symptomatic Following Pharmacotherapy: Randomized Controlled Exploratory Trial. *J Med Internet Res.* 2019;21:e12686.
4. Takeda T, Nakataki M, Ohta M, Hamatani S, Matsuura K, Yoshida R, Kameoka N, Tominaga T, Umehara H, Kinoshita M, Watanabe S, Numata S, Sumitani S, Ohmori T. Negative and positive self-thought predict subjective QOL in people with schizophrenia. *Neuropsychiatr Dis Treat.* 2019;15:293-301

5. Ishii D, Matsuzawa D, Matsuda S, Tomizawa-Shinohara H, Sutoh C, Shimizu E. Spontaneous recovery of fear differs among early - late adolescent and adult male mice. *Int J Neurosci.* 2019;129:1-9
6. Ohira I, Urao Y, Sato Y, Ohtani T, Shimizu E. A pilot and feasibility study of a cognitive behavioural therapy-based anxiety prevention programme for junior high school students in Japan: a quasi-experimental study. *Child Adolesc Psychiatry Ment Health.* 2019;13:40
7. Nakagawa A, Olsson N C, Hiraoka Y, Nishinaka H, Miyazaki T, Kato N, Nakatani E, Tomita M, Yoshioka K, Murakami S, Aoki S. Long-term outcome of CBT in adults with OCD and comorbid ASD: Anaturalistic follow-up study. *Curr Psychol.* 2019;38:1763-1771
8. Koike H, Tsuchiyagaito A, Hirano Y, Oshima F, Asano K, Sugiura Y, Kobori O, Ishikawa R, Nishinaka H, Shimizu E, Nakagawa A. Reliability and validity of the Japanese version of the Obsessive-Compulsive Inventory-Revised (OCI-R). *Curr Psychol.* in press
9. Goto Y, Otaka Y, Suzuki K, Inoue S, Kondo K, Shimizu E. Incidence and circumstances of falls among community-dwelling ambulatory stroke survivors: A prospective study. *Geriatr Gerontol Int.* 2019;3:240-244
10. Matsumoto K, Sato K, Hamatani S, Shirayama Y, Shimizu E. Cognitive behavioural therapy for postpartum panic disorder: a case series. *BMC Psychology.* 2019;7:53
11. Nestor PG, Forte M, Ohtani T, Levitt JJ, Newell DT, Shenton ME, Niznikiewicz M, McCarley RW. Faulty Executive Attention and Memory Interactions in Schizophrenia: Prefrontal Gray Matter Volume and Neuropsychological Impairment. *Clin EEG Neurosci.* in press
12. Takanashi R, Yoshinaga N, Oshiro K, Matsuki S, Tanaka M, Ibuki H, Ohshima F, Urao Y, Matsuzawa D, and Shimizu E. Patients' perspectives on imagery rescripting for aversive memories in social anxiety disorder. *Behav Cog Psychother.* in press
13. Kurayama T, Matsuzawa D, Hirano Y, Shimizu E. Insensitivity of auditory mismatch negativity to classical fear conditioning and extinction in healthy humans. *Neuroreport* 2019;30:468-472

14. Murata T, Hiramatsu Y, Yamada F, Seki Y, Nagata S, Shibuya T, Yokoo M, Noguchi R, Tanaka M, Oshiro K, Matsuzawa D, Hirano Y, Shimizu E. Alterations of mental defeat and cognitive flexibility during cognitive behavioral therapy in patients with major depressive disorder: a single-arm pilot study. *BMC Res Notes*. 2019;12:723
15. Noda Y, Asano K, Shimizu E, Hirano Y. Assessing subgroup differences in posttraumatic stress disorder among rescue workers in Japan using the impact of events scale-revised. *Disaster Med Public Health Prep*, 2019;13:309-318
16. Sato D, Sutoh C, Seki Y, Nagai E, Shimizu E. Treatment Preferences for Internet-Based Cognitive Behavioral Therapy for Insomnia in Japan: Online Survey. *JMIR Form Res* 2019;3:e12635
17. Hamatani S, Numata N, Matsumoto K, Sutoh C, Ibuki H, Oshiro K, Tanaka M, Setsu R, Kawasaki Y, Hirano Y, Shimizu E. Internet-Based Cognitive Behavioral Therapy via Videoconference for Patients With Bulimia Nervosa and Binge-Eating Disorder: Pilot Prospective Single-Arm Feasibility Trial. *JMIR Form Res*. 2019, 23;3:e15738
18. Matsumoto K, Yoshida T, Hamatani S, Sutoh C, Hirano Y, Shimizu E. Prognosis Prediction Using Therapeutic Agreement of Video Conference-Delivered Cognitive Behavioral Therapy: Retrospective Secondary Analysis of a Single-Arm Pilot Trial. *JMIR Mental Health*, 2019;6:e15747.

日本語文献

原著論文

1. 松本一記、清水栄司、濱谷沙世、関陽一、吉野晃平、白山幸彦、佐藤康一. パニック症と広場恐怖症が合併した嘔吐恐怖症に対する認知行動療法の一例報告—他者評価の調査（世論調査）を取り入れた治療モデル—. *認知行動療法研究* 2019, 45 巻 2 号 P87-97. 2019
2. 松本一記、清水栄司、濱谷沙世、吉野晃平、白山幸彦、佐藤康一. 強迫的反すう患者の侵入イメージへの介入. *認知療法研究*, 2019, 12 巻 2 号 152-159.
3. 本島敏乃、杉田克生、荒川浩一. 発達障害児に対する療育介入の現状と課題—療育専門機関でない医療機関の視点から—. *脳と発達* 2019, 51(6), 380-5.

総説

1. 平野好幸、中川彰子、松澤大輔、浦尾悠子、高岡昂太、富安もよこ、清水栄司. 千葉大学子どもこころの発達教育研究センターの取り組み. 子どもこころと脳の発達 2019. 10 巻 1 号 90-99
2. 平野好幸. 認知行動療法と脳科学. 行動科学 2019. 57 巻 2 号 89-95 (2019)
3. 伊藤絵美. 複雑性 PTSD の病態理解と治療—認知行動療法～スキーマ療法の立場から—. 精神療法 2019 第 43 巻第 3 号, pp.343-8.
4. 伊藤絵美. パーソナリティ障害：Young のスキーマ療法（特集：ケースフォーミュレーションと精神療法の展開）. 精神療法 2019 増刊第 6 号, pp.181-90.
5. 伊藤絵美. スキーマ療法—複雑性 PTSD への治療. こころの科学—発達性トラウマ障害のすべて, pp.104-110. 2019/09.

単行書

1. 大島郁葉・鈴木香苗. 「事例でわかる思春期・おとなの自閉スペクトラム症—当事者・家族の自己理解ガイド」 金剛出版. 2019/07/15.
2. 中川彰子, 久能勝（分担執筆）. 新体系看護学全書 精神看護学 2 精神障害をもつ人の看護 第 5 版 F 強迫症および関連症群／強迫性障害および関連障害群. 2019/11.

国際学会

1. Oshima F, Murata T, Ida Shaw, Otani Y, Seto M, Nakagawa A, Shimizu E. Feasibility of Schema Therapy for young Adults with high functioning Autism Spectrum Disorder in Japan: A Pilot Study. International Society for Autism Research. Montreal. 2019/05.
2. Iwama Y, Oshima F, Mandy W, Tsuchiyagaito A, Seto M, Takahashi N, Shiina A, Hongo M, Hirano Y, Suto C, Taguchi K, Yoshida T, Masuya J, Sato N, Nakamura S, Kuno M, Takahashi J, Ohtani T, Matsuzawa D, Kuwabare H, Nakagawa A, Shimizu E. Family cognitive behavior therapy for psychoeducation in multicenter, Aware and Care for my AS Traits for high-functioning autism spectrum disorders in adolescence: Study protocol. International Society for Autism Research. Montreal, Canada. 2019/05/01-04.

3. Hamatani S, Nihei M, Hayashi Y, Tsuchiyagaito A, Shimizu E, Nakagawa A, Hirano Y. Correlations between the clinical profiles and the profile of the Wechsler Adult Intelligence Scale-III in obsessive- compulsive disorder. 9th World Congress of Behavioural and Cognitive Therapies Berlin. 2019/07/17-20.
4. Matsumoto K, Nagai K, Hamatani S, Chihiro S, Otani T, Nakagawa A, Shimizu E. One-Year Follow-Up of Internet-based Cognitive Behavioral Therapy Via Videoconferencing for Patients with Obsessive-Compulsive Disorder, Panic Disorder, and Social Anxiety Disorder. 9th WCBCT in Berlin Bundesrepublik Deutschland. 2019/07/17-20.
5. Takanashi R, Sento A, Araki S, Takahashi Y, Ino Y, Sasaki H, Shimizu E. Work-related intrusive memories and linked beliefs in Japanese employees on sick leaves with depressive disorders. 9th World Congress of Behavioural and Cognitive Therapies Berlin. 2019/07/17-20.

国内学会

1. 吉田麻里奈、杉田克生、坂口純、土田奈緒美、宮武聡子、松本直通、五十嵐俊次. 遺伝子診断により診断し得た家族性片麻痺性片頭痛 1 型の母子例. 第 213 回日本小児科学会千葉地方会. 千葉市. 2019/06/09.
2. 杉田克生、木下裕実、柿沼宏明、宮内厚子、久保美保、中村美樹、内田智子、松澤大輔、杉田記代子. 千葉市療育センター外来診療ならびに発達支援の現状. 第 213 回日本小児科学会千葉地方会. 千葉市. 2019/06/09.
3. 細田豊, 大溪俊幸, 花澤寿, 田中麻未, 橋本佐, 伊豫雅臣, 中里道子. 青年期における日本語版摂食障害簡易スクリーニング検査 SCOFF の有用性についての検討. 第 115 回日本精神神経学会学術総会. 新潟, 日本. 2019/06/20.
4. 杉田克生. 英語読字障害児の療育支援. 第 30 回瀬川塾. 東京. 2019/07/13.
5. 永田忍, 宮崎りつ子, 村上千恵子, 小堀修. 千葉 IAPT 研修生による強迫性障害の集団認知行動療法. 第 19 回 日本認知療法・認知行動療法学会. 国際医療福祉大学, 東京 2019/08/30-09/01.

6. 大島郁葉、中川彰子、谷晋二、熊野宏昭. 「高機能自閉スペクトラム症の認知行動療法」第45回日本認知・行動療法学会. 名古屋、愛知. 2019/08/31-09/01.
7. 松本一記、大森露恵、濱谷沙世、林三千恵、牧野拓也、古川洋和. 新しい時代に活かすための強迫・パニック・社交不安に対する低強度の認知行動療法. 日本認知・行動療法学会第45回大会（自主企画シンポジウム）. 名古屋、愛知. 2019/08/31-09/01.
8. 村田倫一、大島郁葉、清水栄司. 慢性うつ病患者の早期不適応的スキーマおよび、スキーマモードの特徴の検討. 第19回日本認知療法・認知行動療法学会. 国際医療福祉大学、東京. 2019/08/30-31.
9. 岩倉かおり、生稲直美、吉田智子、鍋田満代、千勝浩美、丸山博美、木村佐織、今井千恵、寺山多栄子、高田護、齊藤朋子、潤間励子、大溪俊幸、今関文夫. 千葉大学における肥満学生に対する保健指導実施率向上の取組み. 第57回全国大学保健管理研究集会 札幌, 日本. 2019/10/09.
10. 大溪俊幸、若林明雄、中里道子、岩倉かおり、生稲直美、吉田智子、高田護、齊藤朋子、潤間励子、清水栄司、今関文夫. 精神障害が学生生活にもたらす影響についての検討. 第57回全国大学保健管理研究集会. 札幌, 日本. 2019/10/09.
11. 清水栄司. 第49回日本神経精神薬理学会 / 第29回日本臨床精神神経薬理学会. 合同シンポジウム（座長）. 福岡国際会議場, 日本. 2019/10/12.
12. 鈴木知子、和田耕治、大溪俊幸、池田俊也. 発達障害傾向(自閉症特性)の程度別による職業性ストレスとうつ症状との関連. 第78回日本公衆衛生学会総会. 高知, 日本. 2019/10/25.
13. 濱谷 沙世, 沼田 法子, 松本 一記, 須藤 千尋, 伊吹 英恵, 大城 恵子, 田中 麻里, 薛 陸景, 川崎 洋平, 平野 好幸, 清水 栄司. 過食症へのテレビ電話による認知行動療法の単群実験. 第23回摂食障害学会, 東京. 2019/11/02-03.
14. 杉田克生. 脳室周囲白質軟化症に関連した運動・発達障害に求められる療育（シンポジウム「脳室周囲白質軟化症～これまでとこれから～」）. 第64回日本新生児生育医学会. 鹿児島市. 2019/11/27-29.

15. 浦尾悠子、足立匡基、西村倫子、藤岡徹、明翫光宜、田中早苗、和久田学、河合優年、片山泰一. 子どもの不安への対処力を養う「勇者の旅」プログラムの効果検証研究（口演発表）、第60回日本児童青年期精神医学会、沖縄コンベンションセンター、2019/12/05.
16. 大平育世, 浦尾悠子. 中学1年生を対象とする認知行動療法に基づく不安の予防教育プログラムの実用可能性に関するパイロットスタディ. 第60回日本児童青年期精神医学会総会. 沖縄. 2019/12/05-07.
17. 久能勝, 中川彰子. 自閉スペクトラム症を併存する児童強迫症の特徴と認知行動療法の効果. 第60回児童青年期精神医学会総会. 沖縄コンベンションセンター, 沖縄. 2019/12/05-07.

社会活動

1. 松本一記、濱谷沙世、吉野晃平、白山幸彦、佐藤康一. 周産期発症のパニック症に対する認知行動療法. 第24回千葉総合病院精神科研究会. 千葉市文化センター. 2019/04/13.
2. 清水栄司. 特別講演「認知行動療法の最近の進歩」. 東金 CBT 講演会. 千葉. 2019/05/14.
3. 清水栄司. 「適応障害に、問題解決法等の低強度の認知行動療法を活用する」. 千葉産業保健総合支援センター・専門的研修セミナー. 千葉. 2019/05/23.
4. 大島郁葉. 「児童思春期の高機能自閉スペクトラム症者の診断と支援をつなげるー当事者と家族に対する認知行動療法を用いた心理教育プログラムを通しての検討ー」. 臨床発達心理士会東京支部研修会. 東京. 2019/06/02.
5. 清水栄司. 認知行動療法とは何か?. 認知行動療法サポーター養成講座（依存編）. ウェルネス柏, 千葉. 2019/06/09.
6. 清水栄司. 第115回日本精神神経学会, シンポジウム14「不安症・強迫症の診療ガイドライン」司会. 朱鷺メッセ, 新潟. 2019/06/20.

7. 沼田法子. 怒りのコントロールとコミュニケーション～認知行動療法の視点で怒りを理解する～. 保健師・栄養士向けスキルアップ研修会. (株) ソシオヘルス, 東京. 2019/06/20.
8. 砂上史子. 保育における『機嫌のよい』人間関係づくり—保育現場における連携・協働—. 平成31年度東京都第2ブロック(文京区・台東区・北区・荒川区)園長会研修. 荒川区、東京都. 2019/06/25.
9. 浦尾悠子. 子どものこころ、親の想い. 香取市立小見川西小学校教育ミニ集会講演会. 小見川西小学校体育館, 千葉. 2019/07/09.
10. 杉田克生. 英語読字障害児の療育支援. 第30回瀬川塾. 東京. 2019/07/13.
11. 花澤寿. 「時代と時間」の視点から思春期の不適応を考える. 日本思春期青年期精神医学会. 東京. 2019/7/20.
12. 大島郁葉. 「認定スキーマ療法士取得資格ワークショップ研修会」講師. 千葉大学, 千葉. 2019/07/24-28.
13. 浦尾悠子. 子どもの不安への対処力を育てる. 千葉市教育センター令和元年度夏期専門研修. 千葉市教育会館, 千葉. 2019/7/31.
14. 田中麻里. 船橋市こころの市民講演会「マインドフルネスでストレスとうまくつきあおう!」～毎日の生活でできる瞑想～. 船橋市役所, 船橋市保健福祉センター, 千葉. 2019/08.
15. 浦尾悠子. 子どもの不安の問題とその対応～認知行動療法を活用した予防アプローチ. 令和元年度かほく市教育講演会. かほく市教育委員会, 石川. 2019/08/02.
16. 浦尾悠子. 保健室での認知行動療法の実践. 千葉市養護教諭研修会「健康教育I」. 千葉市教育会館大ホール, 千葉. 2019/08/05.
17. 浦尾悠子. 子どもたちの『心の体力』向上に向けた支援のあり方について～認知行動療法を活用した取り組みに焦点を当てて～. 東松島市学校保健会. 矢本東市民センター, 宮城. 2019/08/06.

18. 浦尾悠子. 認知行動療法プログラムの現在と展望：「勇者の旅」の授業実践を通して「これまでの研究活動と普及活動を通して」. 日本学校心理士会 2019 年度大会大会シンポジウム 2. 聖徳大学, 千葉. 2019/08/17.
19. 田中恒彦, 岩佐和典, 永田忍. ライブセッションと事例から学ぶ認知行動療法. 就実大学心理教育相談室主催第 4 回公開講演会. 就実大学, 岡山. 2019/08/18.
20. 砂上史子. 保育現場の人間関係づくり—機嫌の良い職場づくりを目指して—. 浦安市教育委員会令和元年度園長・主任教諭合同研修会. 浦安市, 千葉. 2019/08/21.
21. 浦尾悠子. 「勇者の旅」プログラム指導者養成研修. 鳥取県いじめ不登校総合対策センター令和元年度安心・安全な学級づくりプロジェクト事業. 鳥取県教育センター, 鳥取. 2019/08/22.
22. 大島郁葉. 「思春期以降の ASD 者のアセスメントと ACAT の紹介」オフィスコンパス主催研修会講師. 札幌、北海道. 2019/08/25.
23. 清水栄司. 「いじめ対策（いじめ被害者支援：常に被害者を守る立場に立つ）」. 川口市芝中央小学校 校内研修会. 川口市, 埼玉. 2019/08/27.
24. 清水栄司. ワークショップ「厚労省治療マニュアルを用いた社交不安症の認知行動療法」. 第 45 回日本認知・行動療法学会大会. 中京大学, 愛知. 2019/08/30.
25. 清水栄司. 「産業保健分野で活かす認知行動療法」. 千葉県医師会 日医認定産業医研修会. 千葉. 2019/09/21.
26. 浦尾悠子. 子どもの不安の解消法～認知行動療法の視点から～. 令和元年度カウンセラー教員養成研修講座・不登校教育相談研修講座. 石川県教育総合研修センター, 石川. 2019/09/25.
27. 清水栄司. 第 37 回日本森田療法学会, シンポジウムⅡ「精神療法の効果検証と脳機能改善課程の探索」, 座長. アクトシティ浜松コンgresセンター, 静岡. 2019/10/06.
28. 田中麻里. 認知行動療法で心の健康づくり. 東金市こころの健康講演会. 東金市役所, 東金市保健福祉センター, 千葉. 2019/11.

29. 花澤寿. 心の育ちの危機と援助者としてのかかわり. 全国国立大学附属学校連盟養護教諭部会関東地区研究協議会. 2019/11/02.
30. 清水栄司. 「低強度の認知行動療法によるメンタルサポート」. 第21回 東京都医師会・昭和大学医師会産業医研修会. 東京. 2019/11/03.
31. 清水栄司. 日本心理医療諸学会連合（UPM）第32回大会, 大会長. 千葉大学亥鼻キャンパス, 千葉. 2019/11/10.
32. 清水栄司. 第46回日本脳科学会「一般演題3（演題番号9～13）」, 座長. 滋賀医科大学リップルテラス, 滋賀. 2019/11/15.
33. 花澤寿. ポリヴェーガル理論からみた臨床的な関わりについて. 千葉こころの支援、実践・研究ネットワーク主催公開研修会. 2019/11/15.
34. 杉田克生, 中道圭人. ASD児の社会脳発達とギフテッドの可能性に関する事例的検討. 第10回千葉こどもの心教育医療研究会. 千葉. 2019/11/15.
35. 浦尾悠子. シンポジウム7「発達障害の二次障害の予防一多（他）職種との連携」不安への介入. 第23回日本精神保健・予防学会学術集会. 金沢市文化ホール, 石川. 2019/11/30.
36. 清水栄司. 第249回生理学東京談話会, 共催. 千葉大学亥鼻キャンパスろのはな同窓会館, 千葉. 2019/11/30.
37. 清水栄司. 「認知行動療法の日常臨床の工夫から最近の話題まで」. 茨城県立こころの医療センター院内研修会. 茨城. 2019/12/12.

受賞

1. 岩間由衣. 第四回千葉大学グローバルプロミネント研究基幹シンポジウム・優秀発表賞. 2019/12/10.

メディア

1. 清水栄司. 高校生新聞4月号【生活】「友達関係の悩み精神科医に聞いた解決法」. 2019/04/08 発行.

2. 清水栄司. 高校生新聞 ONLINE【高校生ライフ】取材
「完璧主義、人間不信、自己否定...友達との関係に悩みがちな人の共通点」
2019/04/11.
3. 清水栄司. 高校生新聞 ONLINE【高校生ライフ】取材
「周りにどう思われるか気になる...意見が言えないとき、どうする？」
2019/04/15.
4. 清水栄司. 高校生新聞 ONLINE【高校生ライフ】取材
「人見知りで初対面の人と話すのが怖い...どうすれば話せるようになる？」
2019/04/16.
5. 清水栄司. 高校生新聞 ONLINE【高校生ライフ】取材
「苦手な人、自分に合わない人と上手につき合うコツ 人を好きと嫌いに二分しないで」2019/04/18.
6. 清水栄司. 高校生新聞 ONLINE【高校生ライフ】取材
「友達グループに入れなくても大丈夫一人で過ごすことの良い面に目を向けよう」2019/04/23.
7. 清水栄司. 高校生新聞 ONLINE【高校生ライフ】取材
「会話が途切れると気まずい人へ→会話に間はあっていい、ハードルを高くしないで」2019/04/25.
8. 清水栄司. 高校生新聞 ONLINE【高校生ライフ】取材
「つい攻撃的な口調になってしまう人へ→自分のイライラに点数をつけて客観視してみよう」2019/04/30.
9. 清水栄司. 高校生新聞 ONLINE【高校生ライフ】取材
「コミュ力があるほうが得？内向的でも一目おかれる人も、自分の良さを見つけて」2019/05/02.
10. 清水栄司. NHK テキスト「きょうの健康」2019年5月号 P66-77. 2019/04/20 発行.
11. 清水栄司. NHK「きょうの健康」取材
“こころの不調”の処方箋「人が怖い...社交不安症」

2019/05/15 放送 (2019/05/22 再放送) .

“こころの不調”の処方箋「パニック症！突然の恐怖どう対処？」

2019/05/14 放送 (2019/05/21 再放送) .

12. 清水栄司. 神戸新聞, 静岡新聞

慢性疼痛の認知行動療法について「傷や病気が治った後も続く痛み 不安やストレスが関係 「認知行動療法」精神的なサポート重要」 2019/06/03 発行

13. 砂上史子. ふなっしー×砂上史子 スペシャル対談「行く先々で大人気。

ふなっしーが語る元気と希望と、そして夢」.

『保育ナビ』2019年9月号. p4-9. フレーベル館. 2019/08/01 発行

14. 花澤寿. 「過呼吸症候群とは」. 中学保健ニュース. 2019年9月号.

15. 清水栄司. フジテレビ「Mr.サンデー」強迫性障害について 取材

『医師たちの闘いSP』2019/09/15 放送.

16. 浅野憲一. 読売新聞社「医療ルネサンス」で集団 CFT についての記事が掲載されました。『うつ病からの回復<3>慈悲の心で「自責」を薄める』. 2019/10/30.

17. 清水栄司. NHK 「きょうの健康」 ”みんなの保健室” 「突然、息が苦しい！」.

2019/12/25 放送.

2020年業績(3月31日まで)

英語文献

原著論文

1. Fujioka T, Tsuchiya KJ, Saito M, Hirano Y, Matsuo M, Kikuchi M, Maegaki Y, Choi D, Kato S, Yoshida T, Yoshimura Y, Ooba S, Mizuno Y, Takiguchi S, Matsuzaki H, Tomoda A, Shudo K, Ninomiya M, Katayama T, Kosaka H. Developmental changes in attention to social information from childhood to adolescence in autism spectrum disorders: a comparative study. *Mol Autism*. in press
2. van den Heuvel OA, Boedhoe PSW, Bertolin S, Bruin WB, Francks C, Ivanov I, Jahanshad N, Kong XZ, Kwon JS, O'Neill J, Paus T, Patel Y, Piras F, Schmaal L, Soriano-Mas C, Spalletta G, van Wingen GA, Yun JY, Vriend C, Simpson HB, van Rooij D, Hoexter MQ, Hoogman M, Buitelaar JK, Arnold P, Beucke JC, Benedetti F, Bollettini I, Bose A, Brennan BP, De Nadai AS, Fitzgerald K, Gruner P, Grünblatt E, Hirano Y, Huysler C, James A, Koch K, Kvale G, Lazaro L, Lochner C, Marsh R, Mataix-Cols D, Morgado P, Nakamae T, Nakao T, Narayanaswamy JC, Nurmi E, Pittenger C, Reddy YCJ, Sato JR, Soreni N, Stewart SE, Taylor SF, Tolin D, Thomopoulos SI, Veltman DJ, Venkatasubramanian G, Walitza S, Wang Z, Thompson PM, Stein DJ; ENIGMA-OCD working group. An overview of the first 5 years of the ENIGMA obsessive-compulsive disorder working group: The power of worldwide collaboration. *Hum Brain Mapping*. in press
3. Numata N, Hirano Y, Sutoh C, Matsuzawa D, Takeda K, Setsu R, Shimizu E, Nakazato M. Hemodynamic responses in prefrontal cortex and personality characteristics in patients with bulimic disorders: a near-infrared spectroscopy study. *Eat Weight Disord*. 2020;25:59-67

日本語文献

原著論文

1. 松本一記, 濱谷沙世, 清水栄司, 吉野晃平, 白山幸彦, 佐藤康一. 強迫症の認知行動療法デジタル教材: ケースシリーズ. *不安症研究*, 2020, vol.12, No.1. In-press.
2. 花澤寿. 「時代と時間」の視点から思春期の不適応を考える. *思春期青年期精神医学* Vol. 29, 2020, P83-91. 2020/02/10.

総説

1. 沼田法子, 清水栄司. 自閉スペクトラム症の特性を基盤に持つ難治の精神疾患に対する新しい心理療法～神経性やせ症に対する認知機能改善療法～. 科学評論社 36 巻 01 号, 70-76. 2020.
2. 上野一彦, 濱谷沙世. 東京都 A 区における特別支援教育 12 年の実践. LD ADHD & ASD 特集 指導・支援に悩んだ時の作戦練り直し術 2020 年 18 巻 1 号, pp.42-43. 2020/01.

単行書

1. 清水栄司, 永田忍. 2020. 今日の治療指針 2020 電子版 (分担執筆) オンライン診療の手引き 不安症(パニック症, 不安症), 強迫症の認知行動療法. 医学書院. 2020.

国内学会

1. 山田恵美, 渡辺弘子, 鈴木愛, 川俣和子, 堀安紗美, 南館侑希, 杉田克生. 神経発達症児への小集団療育プログラム. 千葉県小児保健協会総会. 千葉市. 2020/01/18.
2. 松本一記, 清水栄司. 強迫症に対するガイド付きインターネット認知行動療法の有効性評価戦略: ランダム化比較試験プロトコル. JTTA Spring Conference, 東京・日本. 2020/01/18. 口頭発表.
3. 新野青那, 松本一記, 濱谷沙世, 井階友貴, 牧野拓也, 鈴木太, 林寛之, 清水栄司. パニック症と社交不安症に対するガイド付きインターネット認知行動療法の実用可能性試験: 研究プロトコル. 日本不安症学会. 神戸・日本. 2020/03/09-10. ポスター発表.

社会活動

1. 清水栄司. 「うつと不安の最近の話題認知行動療法と薬物療法. 京都精神科医会学術講演会 京都. 2020/01/18.
2. 清水栄司. 「適応障害に、問題解決法等の低強度の認知行動療法を活用する」. 千葉産業保健総合支援センター・専門的研修セミナー, 千葉. 2020/01/23.
3. 花澤寿. 思春期の不適応を「時間」との関係から考える. 千葉県養護教諭研究発表会. 千葉県文化会館, 千葉. 2020/01/24.

4. 田中麻里. ストレスに向き合う心の整え方～マインドフルネスを使って～. 江東区深川保健相談所, 東京. 2020/02.
5. 清水栄司. 特別講演「心身医学（不安症、不眠症、身体症状症）における認知行動療法の最近の話題」. 第 131 回日本心身医学学会関東地方会. 東京大学弥生講堂一条ホール, 東京. 2020/02/09.
6. 花澤寿. 困難ケースの理解と対応 電話相談をめぐるいくつかの助言. 公益財団法人エイズ予防財団困難事例勉強会. 2020/02/14.
7. 清水栄司. 総括講演「プロジェクトの今後、子どもたちの未来のために」. 子どもみんなプロジェクト報告会. 千葉大学亥鼻キャンパスろのはな記念講堂, 千葉. 2020/02/20.
8. 濱谷沙世. 特別研究員採用者からの体験談とアドバイス. 日本学術振興会特別研究員公募説明会. 千葉. 2020/03/05.
9. 久能勝. 強迫症の認知行動療法. 第 12 回日本不安症学会学術大会. 兵庫医療大学, 兵庫. 2020/03/06-07.

メディア

1. 浦尾悠子. 朝日新聞 EduA の取材を受けました. 「受験勉強・人間関係...子どものストレスを軽減するためのコミュニケーション法」. 2020/01/22.

社会還元

第11回 Autism Awareness Day in CHIBA

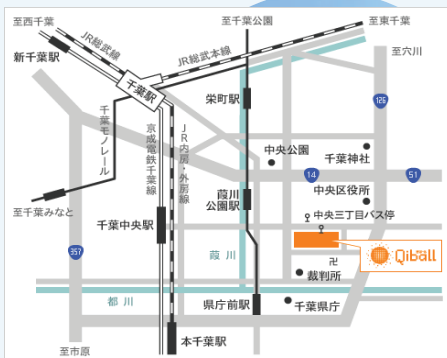
世界自閉症啓発デー ～みんな大切な仲間です～ in ちば

2019年 きぼーる

4 / 13 (土) Qiball 1F きぼーる広場

11:00～16:00

交通アクセス



Qiball (きぼーる) 1F アトリウム
千葉市中央区中央4-5-1

JR 千葉駅より 徒歩15分
バス 中央3丁目 下車すぐ

千葉都市モノレール
葭川公園駅より 徒歩4分



千葉県 PR マスコット
キャラクター
チーパくん

プログラム

- 11:00 開会式
- 11:10 ミニコンサート
自閉症の方たちが奏でる音楽を
どうぞお楽しみください!
- 12:30 公演「自閉症ってなあに！」
【出演】千葉市キャラバン隊「ららら」
疑似体験やお芝居を交えながら、
わかりやすくお話いただきます!
- 14:00 バンド演奏
【出演】リオマルカ
ブラスバンドの演奏で盛り上がりよう!
知っているあの曲も演奏されるかも?
- 15:30 劇団 JAMBO 公演
障がいのある人もない人も、
一緒になって創る・楽しむミュージカル!

問合せ：千葉県発達障害者支援センターCAS
Tel 043-227-8557

主催：「世界自閉症啓発デー in ちば実行委員会」
千葉県自閉症協会
千葉県発達障害者支援センターCAS
千葉市発達障害者支援センター

共催：千葉県、千葉市

協力：ジェフユナイテッド市原・千葉
NTT データグループ有志社員
千葉大学子どものこころの
発達教育研究センター



©1992 DNP/EFEC

千葉ポートタワー ブルーライトアップ

日時

2019年4月2日～8日

18:00～21:00

場所

千葉ポートタワー

千葉市中央区中央港1丁目

☆千葉都市モノレール

JR 京葉線千葉みなと駅より

徒歩約12分

☆JR 千葉駅西口から 小湊バス

千葉みなとループバス乗車

毎年4月2日は国連が定めた
世界自閉症啓発デーです。

また、4月2日から8日は
発達障害啓発週間と

されています。

この期間を中心として

世界や日本の各地で

啓発イベントが行われ

世界中のランドマークが

自閉症啓発カラーのブルーに

ライトアップされます。

自閉症のある人は こんなことで困っています

- ◆思っていることを、相手に
分かりやすく伝えるのが難しい
- ◆一度に沢山のことを
言われると困ってしまう
- ◆予定外のことが起こると、
不安になってしまう
- ◆聴覚過敏、知覚過敏により
大きな音やにおい、
急に触れられることが苦手

自閉症のある人と 接するときのポイント

ポイント1

前から・ゆっくり・短く話しかける

! 後ろから声をかけると驚いて不安になる人もいます

ポイント2

具体的に質問する

! 言葉が出ず困っている時は、相手の状況や気持ちを推測してこちらから質問し、気持ちを確認します
「はい」「いいえ」で答えられるように質問します

ポイント3

言葉以外の方法を使ってみる

! メモや絵、図を使い理解を助けるようにします



世界自閉症啓発デー

- 自閉症についてのご相談はこちらにご連絡ください
- ◆ 千葉県発達障害者支援センターCAS TEL 043-227-8557
 - ◆ 千葉市発達障害者支援センター TEL 043-303-6088
 - ◆ 千葉県自閉症協会 (ホームページをご覧ください)

毎年4月2日は、国連の定めた
世界自閉症啓発デー

毎年
4/2～4/8は、
発達障害啓発週間



教員が研究の楽しさを語る - 第223回 -

6.4 Tue.

12:10-12:40

事前申込み不要 ご自由にご参加ください

先生が研究について、ちょっと本気で語ります。
授業とは一味違う30分間。



場所▶▶▶附属図書館N棟1階プレゼンテーションスペース

不安への対処力を養う

「勇者の旅」プログラム

— 認知行動療法を活用した予防教育 —



浦尾 悠子 先生

(子どものこころの発達教育研究センター)

専門分野：小児発達学・メンタルヘルス支援学)



CHIBA UNIVERSITY

Academic Link

ADOS-2 臨床ワークショップ開催概要

● ADOS とは ● ADOS(Autism Diagnostic Observation Schedule) とは、自閉スペクトラム症の判断と診断のための検査です。患者の年齢や、言語技能発達レベル別に内容を合わせた5種類のモジュールがあり、個々にあわせた正確な診断が可能です。

● ADOS-2 臨床ワークショップとは ● NYにあるCenter for Autism and the Developing Brain (CADB)が行っている標準的なADOSの臨床使用資格のためのワークショップです。このワークショップを受講することで、公的な臨床使用資格を得ることができます。

● 開催概要 ●

日 時：2019年6月8日(土) 9時30分～17時30分 *開催時間が異なりますので

9日(日) 9時15分～17時30分

ご注意ください

場 所：千葉大学大学院医学研究院 医学部本館2階 大カンファレンス室

(〒260-8670 千葉市中央区亥鼻 1-8-1 亥鼻キャンパス)

料 金：無料 *参加費は無料ですが、ADOSのマニュアルおよび質問紙は各自ご用意ください

参加資格：千葉大学大学院医学研究院・連合小児発達学研究所千葉校の学生および教職員

千葉大学子どもこころの発達教育研究センター教職員、

特任研究員(CBTセラピスト)、その他関係者

*両日参加可能な方のみ(遅刻や早退も不可とします)

*ワークショップまでにADOSを施行したことがある方(同僚同士の練習でも可)

定員：45名(メ切4月30日参加資格を満たす方のうち、先着順とします)



● スケジュール概要 ● *変更することがあります

8日(土) 9時00分 受付開始

09:30-09:45 ADOSの紹介(イントロ)

09:45-11:45 モジュール1、2の紹介

11:45-12:00 休憩

12:00-13:00 live demonstration

13:00-14:30 昼休憩(各自でスコアリング)

14:30-16:30 実施および評価に関する議論

16:30-16:45 休憩

16:30-17:30 ADOSに関する心理統計学

適切な臨床使用に向けて

9日(日) 9時00分 受付開始

09:15-10:00 ADOSの紹介(初日の続き)

10:00-11:15 モジュール3および4の紹介

11:15-11:30 休憩

11:30-12:30 live demonstration

12:30-14:00 昼休憩(各自でスコアリング)

14:00-15:45 実施および評価に関する議論

15:45-16:00 休憩

16:00-17:15 実施および評価に関する議論(続き)

17:15-17:30 まとめ

● 講師紹介 ●

医学博士 廣瀬 公人 先生

京都大学大学院医学研究科(精神医学)卒業。

平成27年4月より、甲子園こども相談室を開設。

ADOS2については23年に研究ライセンス資格取得

平成27年2月にトレーナー資格を取得。

現在、日本では有数のADOS2トレーナー

資格保持者。

● 参加登録方法およびお問い合わせ ●

参加資格を満たす方は、下記のアドレス宛に、1から4を明記の上、お送りください。その後、こちらから参加最終確認のメールを折り返しさせていただきます。お問い合わせがある場合も下記アドレスまでお送りください。

メールアドレス：chiba_asd@yahoo.co.jp

1. お名前(フリガナ) 2. 所属 3. 職種 4. 連絡先(電話・メールアドレス)を明記ください。

認定スキーマ療法士取得資格ワークショップ

1. 目的

医療保健福祉の専門職の養成にかかわる教員が、難治性疾患（パーソナリティ障害、高機能自閉スペクトラム症、慢性うつ病など）の治療スキルの向上を目的とし、専門職に向けた高強度認知行動療法の能力を高めることを目的としたワークショップとなっています。

2. 主催・実施

千葉大学子どもこころの発達教育研究センター

講師 大島 郁葉

医学博士。臨床心理士。アドバンスレベル国際認定スキーマ療法士。2014年より国際スキーマ療法協会（ISST）での継続的トレーニングも開始し、2016年に国内で初めてアドバンスレベルのスキーマセラピストとしての資格取得。

本ワークショップ実施資格保有者。

3. 日時

研修Ⅰ 2019年7月25日(木)～7月28日(日)、4日間

研修Ⅱ 2020年2月27日(木)～3月1日(日)、4日間 合計8日間（全日9:30受付開始、16:30終了予定）

研修Ⅲ 20回のカイプSV（1回50分・時間は要相談）

*7月と2月の講習後、2020年4月より、希望者のみスカイプSVを実施。スカイプSV終了ののち、

国際スキーマ療法協会（ISST）にて認定試験を受ける（20回のカイプSVののちにSTを施行したテープを2本、国際スキーマ療法協会に送る）。合格すれば国際スキーマ療法士スタンダード資格が授与される。

4. 会場

千葉大学子どもこころの発達教育研究センター 7階セミナー室
（千葉市中央区亥鼻1-8-1 医薬系総合研究棟Ⅱ7階717号室）

5. 参加費

講習費（5時間／日×8日間＝計40時間）：160,000円（テキスト代金含む）

スカイプSV代（（1回50分）×20回分）：140,000円

*1年目には、16万、2年目には、スカイプSV希望者のみ、14万を振込いただきます。

*スカイプSV希望の場合、平日9-17時の間で担当者と相談をして日時を決定致します。

*参加費お支払方法につきましては、参加のご案内と併せてご連絡させていただきます。

6. 参加資格

- 1) 医師、臨床心理士、発達臨床心理士、公認心理師、教師など、2年以上メンタルヘルスの専門職であること
- 2) 全日程参加でき、研修期間中は研修に専念できること

7. 定員

10名（10名を超えた場合、抽選となります）

8. 申し込み方法

①お名前（フリガナ）、②所属、③連絡先（電話・メールアドレス・住所）、④職種を明記の上、下記メールアドレスまでお送りください。お問合せがある場合も下記アドレスまでお願い致します。

メールアドレス：schematherapytraining.japan@gmail.com

申込締切：**2019年5月10日**です。お申込みいただいたメールアドレスに2019年5月31日までに通知致します。

学校認知行動療法研修会・指導者養成6時間ワークショップ

不安への対処力を養う 認知行動療法の授業実践

参加費
無料

(小学校高学年～中学生向けの、10回の授業で行う予防教育プログラムです)

主催:千葉大学子どものこころの発達教育研究センター 後援:千葉県教育委員会

認知行動療法に基づく予防教育プログラム「勇者の旅」の指導者を養成します。不安の問題に対処する知識とスキルを、授業で教えてみませんか？



- ◆ 時間:9:30-16:30 (9時受付開始)
- ◆ 内容:ミニ講義(認知行動療法とは/「勇者の旅」プログラムとは)、ロールプレイによる模擬授業、質疑応答、修了証授与
- ◆ 対象:小中学校の教諭、養護教諭、スクールカウンセラー、その他、学校現場で子どものこころの教育に携わっている方(学級活動、総合的な学習の時間、道徳等の時間に実施をご検討いただける先生であれば、どなたでもお申込みいただけます。)
- ◆ 定員:45名程度(事前申込制です。申し込み方法の詳細は、裏面をご覧ください。)

日程	開催日	会場	所在地
A	7月29日(月)	千葉大学亥鼻キャンパス 医薬系研究棟Ⅱ期棟	千葉市中央区亥鼻1-8-1
B	8月5日(月)	木更津市立富来田中学校	木更津市真里谷275
C	8月21日(水)	市原市立南総中学校	市原市安久谷140
D	8月23日(金)	館山市立館山第二中学校	館山市長須賀136
E	8月26日(月)	安房教育会館	館山市北条2609-20
F	8月29日(木)	柏市立柏中学校	柏市明原4-1-1
G	8月21日(水)	松戸市柿木台公園体育館	(募集終了)

◆ ワークショップの目的

子どもたちは様々な不安の問題を抱えており、それが学校生活での不適応(問題行動・不登校等)や学業成績の不振につながる場合も多くあります。その解決法として、不安の感情をコントロールする目的で、考え方(認知)や行動のパターンを見直す認知行動療法が、医療機関で実施されています。

また近年、学校現場において、学級集団を対象に認知行動療法に基づく指導を行うことで、子どもたちの不安の点数を低減することが実証できています。本ワークショップでは、小学校5~6年生から中学校の児童生徒向けに、学校で行う認知行動療法の授業を実践できるようになるためのワークショップです。

◆ 研修会参加申し込み方法

①氏名(ふりがな) ②性別 ③所属 ④職種 ⑤参加希望日程(A~F) ⑥(当日連絡のつく)電話番号 ⑦(異動後も連絡可能な)メールアドレス ⑧授業実践予定の有無(今年度予定・来年度予定・未定・なし)について明記の上、**7月19日(金)**までに、yuushanotabi@chiba-u.jpまでお申し込み下さい。

【お申し込みにあたっての留意事項】

- ・今年度、または次年度に勤務校にて授業実践予定となっている先生方は、優先的に本研修をご受講いただくことができます。⑧にその旨を明記してください。
- ・お申し込みが定員を超えた場合、抽選とさせていただきますので、あらかじめご了承ください。
- ・抽選の結果等につきましては、**7月24日(水)**に、お申込みメールへ返信の形でご連絡いたします。上記申し込みアドレスから結果が送信されますので、受信設定をあらかじめご確認ください。

【文部科学省委託事業】

本事業は、平成26年7月24日の文部科学省「情動の科学的解明と教育等への応用に関する調査研究協力者会議(審議のまとめ)」の提言を受け、研究と教育の現場をつなぐ目的で立ち上げられたものであり、平成27年度予算に基づき文部科学省の委託事業として大学コンソーシアム(大阪大学を基幹大学に、金沢大学、浜松医科大学、千葉大学、福井大学、鳥取大学、弘前大学、兵庫教育大学、武庫川女子大学、中京大学の10大学)により行われるものです。

【令和元年度いじめ対策等生徒指導推進事業】

脳科学・精神医学・心理学等と学校教育の連携の在り方「子どもみんなプロジェクト」のご案内

本取り組みでは、不登校、いじめ、子どもの問題行動とともに、子どもたちみんなの育ちと学びについて、教育実践者と基礎的学問領域の研究者がそれぞれの立場から、課題について考え、その解決策を探ります。

(URL <http://smilesupporter.wix.com/kodomo>)



千葉大学

子どものこころの発達教育研究センター

〒260-8670 千葉市中央区亥鼻1-8-1 電話:043-226-2975 Fax:043-226-8588

令和元年度かほく市教育講演会

子どもの不安の問題とその対応

～ 認知行動療法を活用した予防アプローチ ～

日時 令和元年8月2日（金）14：00～16：00

会場 石川県西田幾多郎記念哲学館 哲学ホール
（〒929-1126 石川県かほく市内日角井1）

講師 千葉大学子どものこころの発達教育研究センター 特任助教
浦尾 悠子 氏



《講師プロフィール》

〔略歴〕

平成22年 順天堂大学大学院医療看護学研究科 修士課程 修了
平成22年～ 千葉大学大学院看護学研究科 助教
平成25年～ 千葉県立保健医療大学健康科学部看護学科 講師
平成26年 大阪大学大学院連合小児発達学研究科 博士課程 単位修得退学
平成28年～ 千葉大学子どものこころの発達教育研究センター 特任助教（現在に至る）

〔学位〕

修士：看護学（精神看護学）、博士：小児発達学（メンタルヘルス支援学）

〔主な研究テーマ〕

児童・思春期の子どもに対する認知行動療法に基づく不安の予防教育の効果

《お申し込み・お問い合わせ》

〒929-1125

石川県かほく市宇野気ニ110番地1

かほく市教育委員会 教育センター 西尾・川端

Tel 076-283-7170 Fax 076-283-2146

E-mail kyouiku@city.kahoku.lg.jp

【主催】

かほく市教育委員会

【共催】

河北郡市教育振興会

令和元年度 附属学校教員合同研修会

いじめ・児童虐待・発達障害と生活状況との 関係に関する研究動向

講師 高岡昂太先生

国立研究開発法人 産業技術総合研究所 人工知能研究センター 研究員
千葉大学 子どものこころの発達教育研究センター 特任助教
教育学博士・臨床心理士・司法面接士

いじめや児童虐待への対応や発達障害の可能性のある児童等への対応は、学校現場において重要な課題となっており、最近の研究の成果をふまえた取り組みをすることが附属学校園として求められています。

児童虐待を受けてきた子どもが発達障害と同様の傾向を示したり、遅刻や欠席が増えたり、宿題をやってこなかったりする傾向があることが、これまでの研究からわかっています。ADHDと診断された成人の中に身体的な虐待を受けてきた人が多いこともわかっています。

今回の合同研修会では、こうした研究動向に詳しく、児童相談所等と連携して関連するデータをAIで分析する研究を進めておられる高岡昂太先生にお越しいただきます。質疑応答の時間を多くとるようにしますので、今後の実践や研究に結びつく機会としていただければ幸いです。

令和元年 8月21日(水) 9:30～11:30

教育学部 1号館大会議室

企画 千葉大学教育学部 附属学校委員会

お問い合わせ 各学校園副校長または藤川 daisuke.fujikawa@chiba-u.jp まで

千葉大学大学院医学研究院
文部科学省
課題解決型高度医療人材養成プログラム（精神関連領域）

メンタルサポート医療人と プロの連携養成フォーラム

テーマ

「心理学・精神科学の 文理横断橋渡し研究について」

日時：2019年9月4日（水）15：00～17：00

会場：千葉大学医学部本館1階 第2講義室

参加費：無料

座長：丹野義彦・清水栄司

15：00～15：05：開会挨拶

千葉大学大学院医学研究院 教授
千葉大学子どものこころの発達教育研究センター長

清水 栄司

15：05～15：20

「瞬目・瞳孔反応と知覚変化の相互関係」

千葉大学大学院人文科学研究院 教授 木村 英司

15：20～15：35

「『タキサイキア現象』の知覚認知的基礎」

千葉大学大学院人文科学研究院 教授 一川 誠

15：35～15：50

「保育環境、家庭環境と子どもの発達」

千葉大学教育学部 教授 砂上 史子

15：50～16：05

「犯罪・非行とこころの健康」

千葉大学社会精神保健研究センター 特任助教

東本 愛香

16：05～16：20

「大学病院における働き方改革と

メンタルサポート」

千葉大学医学部附属病院 産業医
千葉県庁医療整備課

吉村 健佑

16：20～16：30：休憩

16：30～17：00

「公認心理師の時代がやってきた」

東京大学大学院総合文化研究科 教授

丹野 義彦



主催：千葉大学大学院医学研究院認知行動生理学
千葉大学子どものこころの発達教育研究センター
千葉こどもの心医療教育研究会

千葉大学大学院医学研究院
文部科学省
課題解決型高度医療人材養成プログラム（精神関連領域）

メンタルサポート医療人とプロの連携養成フォーラム

Cognitive Therapy for Social Anxiety Disorder （社交不安症への認知療法）

©Social Anxiety Ireland

参加
無料

2019年

12月11日 水
10:00-15:30

※事前申込不要、逐次通訳あり

＜会場＞

千葉大学亥鼻キャンパス
薬学部医薬系総合研究棟II
地下1階・大会議室

キャンパスマップ：

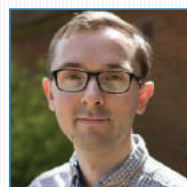
http://www.chiba-u.ac.jp/campus_map/inohana/index.html



講師：Dr. Graham Thew

Senior Academic Clinical Psychologist

Oxford Health NIHR Biomedical Research Centre & Oxford Health NHS Foundation Trust
Oxford Centre for Anxiety Disorders and Trauma (OxCADAT)
Department of Experimental Psychology, University of Oxford



座長：吉永尚紀（宮崎大学テニュアトラック推進機構・講師）

ClarkとWellsは、社交不安症の維持メカニズムを説明する「認知モデル」を提唱し、このモデルにもとづく認知療法を開発しました。本ワークショップでは、Oxford大学でClarkとともに社交不安症の研究と治療に携わってきたThew博士が、社交不安症に特化した認知モデルおよび主要な認知療法の技法を紹介します。

主催：千葉大学大学院医学研究院認知行動生理学
千葉大学子どものこころの発達教育研究センター
宮崎大学テニュアトラック推進機構

お問合せ：千葉大学大学院医学研究院認知行動生理学 TEL：043-226-2027（受付）

令和2年1月 日
国立大学法人 千葉大学

「子どもみんなプロジェクト」報告会を開催

こころの発達の視点から子どもと先生を支える5年間の取り組み成果を報告

千葉大学は、平成27年から文部科学省委託事業「子どもみんなプロジェクト」に参画し、子どもたちのこころの発達の視点から、いじめや不登校などの問題に取り組んできました。この度、本プロジェクトの5年間の活動報告会を亥鼻キャンパスで開催しますので、ぜひ取材にいらしてください。

テーマ：すべての子どもたちの幸せのために、私たちは何をすべきなのか？

～教師と研究者が一緒になって考える、子どもたちみんなの幸せの方程式～

日時：令和2年2月20日（木）14:00～17:00（開場13:30）

会場：千葉大学医学部 めのはな記念講堂

プログラム（予定）：

子どもの発達リスクへのアプローチ（弘前大学）

勇者の旅プログラムの効果とその実践（千葉大学）

学校風土へのアプローチ

（浜松医科大学・子どもの発達科学研究所）

プラットフォームの可能性（子どもみんなプロジェクト事務局）

※入場無料でどなたでも参加できますが、事前にホームページの申し込みフォーム（<http://u0u0.net/hLjW>）よりお申込みください。

※取材のお申し込みについては、下記お問い合わせ欄をご覧ください。



■子どもみんなプロジェクトとは

いじめ、暴力、不登校など、子どもたちの周りに起こる様々な問題を、科学的な方法により解決することを目的とし、平成27年度に開始しました。10大学からなるコンソーシアムが、国や教育現場と連携し合って取り組みを進め、成果を教育現場での実践や研修などで全国に広める活動を行っています。千葉大学では子どものこころの発達研究センターが参画し、認知行動療法を提供できる人材養成に向けた研究や、認知行動療法の効果を高めるための脳科学研究、学校での発達段階に応じたメンタルヘルス増進を支援する教育研究を行っています。

<http://www.kodomo-minna.jp/>

■千葉大学の取り組み～勇者の旅プログラム～

『勇者の旅』は、小学校高学年（～中学生）児童を対象とする予防教育プログラムで、認知行動療法の考え方に基いて構成されています。子ども達は各自がワークブックに書き込みをしながら、自分自身の不安の問題を解決する方法を考えたり、実際に行動したりすることを通して、不安への対処力を身につけていきます。

<https://www.cocoro.chiba-u.jp/yuusha/index.html>



ストーリー仕立てになっている
「勇者の旅」ワークブック

本件に関する取材のお問い合わせ

子どもの発達科学研究所内 子どもみんなプロジェクト事務局：和久田学、中里匡志

電話・FAX：053-456-0575 E-mail：toiawase@kodomo-minna.jp

※取材を希望される方は、令和2年2月14日（金曜日）までに、上記連絡先へEメールにて、お名前、所属機関、電話番号、撮影希望の有無を明記の上、お申し込みください。

※入館の際は、社名入り腕章を御携帯ください。なお、撮影（テレビカメラによる撮影を含む。）については、進行の妨げにならないよう、「子どもみんなプロジェクト」事務局に従ってください。

基礎からわかる発達障害

～成人期の困り感と家族の関わりについて～

【日時】

2020年2月1日(土) 13:00～15:00
(受付開始 12:30～)

【場所】

千葉市生涯学習センター 2階 ホール

JR千葉駅「中央改札」を降り「千葉公園口」徒歩8分

千葉都市モノレール「千葉公園駅」から徒歩5分

※駐車場（有料）に限りがありますので、公共交通機関でご来場ください

【定員】 300名 無料

【講師】

千葉大学子どもこころの
発達教育研究センター

おおしま ふみよ
大島 郁葉 先生



【経歴】

臨床心理士、公認心理師、医学博士。現在、千葉大学子どもこころの発達教育研究センター講師。思春期以降の自閉スペクトラム症の方への心理的支援を専門としている。

現在は、児童思春期の自閉スペクトラム症の方に対する親子参加型の認知行動療法を用いた自己理解プログラムや成人期の自閉スペクトラム症の人の感情コントロールを目的としたスキーマ療法の臨床研究を行っている。

主な著書としては、「事例でわかる思春期・おとなの自閉スペクトラム症—当事者・家族の自己理解ガイド」が金剛出版から発売されている。

お申込み・問い合わせ先

千葉市発達障害者支援センター ☎043-303-6088 📠043-279-1353

〒261-0003 千葉市美浜区高浜 4-8-3 ✉cdc-yoyaku@snow.ocn.ne.jp

主催：千葉市発達障害者支援センター 共催：千葉市生涯学習センター

基礎からわかる発達障害～ 成人期の困り感と家族の関わりについて

【講演内容紹介】

近年、メディアで取り上げられることもあり、発達障害という言葉の認知は広がってきています。しかし外見からはその困り感が見えにくく、社会生活において誤解を受けてしまうことがあります。「相手の気持ちを汲むことが難しい」「臨機応変な判断が苦手」等、発達障害の特性は社会生活の中で様々な形の「生きづらさ」となって現れます。

今回の講演では千葉大学子どものこころ発達教育研究センター講師の大島郁葉先生より、発達障害の基礎知識や成人期の当事者が困りがちなこと、当事者の方、ご家族、支援者が心がけておきたいことなど幅広くお話いただきます。生きづらさを和らげるコツを一緒に考えてみませんか？



【会場案内】

千葉生涯学習センター 2F ホール
千葉市中央区弁天 3-7-7

JR 千葉駅「中央改札」を降り「千葉公園口」徒歩 8 分
千葉都市モノレール「千葉公園駅」から徒歩 5 分
※駐車場（有料）に限りがありますので
公共交通機関でご来場ください

【お申込み・問い合わせ】

- 1月24日(金)までに、FAX・メール・電話のいずれかでお申込みください。
- 氏名、所属(所属のない方はかまいません)、当日連絡先(TEL)をお伝えください。

千葉市発達障害者支援センター

TEL 043-303-6088

FAX 043-279-1353

Mail cdc-yoyaku@snow.ocn.ne.jp

※受付完了通知・受講票等の発行は致しません。
当日直接会場にお越しください。

※お伺いする個人情報については、個人情報保護法に基づいて、必要な範囲に限定して利用します。

お申込み FAX 043-279-1353 (千葉市発達障害者支援センター)

ふりがな		ご所属	
お名前		連絡先 (TEL)	
ふりがな		ご所属	
お名前		連絡先 (TEL)	
ふりがな		ご所属	
お名前		連絡先 (TEL)	

文部科学省委託事業「子どもみんなプロジェクト」イベント@千葉

学校認知行動療法研修会・指導者養成6時間ワークショップ

不安への対処力を養う 認知行動療法の授業実践

(小学校高学年～中学生向けの、10回の授業で行う予防プログラムです)

日時: 令和2年2月8日(土)9:30-16:30 (9時受付開始)

会場: 千葉大学亥鼻キャンパス (千葉市中央区亥鼻1-8-1)

講師: 浦尾悠子 (千葉大学子どものこころの発達教育研究センター特任助教)

ファシリテーター: 小柴孝子 (千葉大学子どものこころの発達教育研究センター特任研究員)

主催: 千葉大学子どものこころの発達教育研究センター

後援: 千葉県教育委員会、千葉市教育委員会(申請中)

参加費

無料

定員45名程度

※事前申し込み制です。
申し込み方法の詳細は、
裏面をご覧ください。

◆ ワークショップの主な内容

1. 不安予防プログラムの紹介
2. ロールプレイによる授業実践
3. 質疑応答
4. 指導者認定証の授与

◆ 主な受講対象者

小中学校の教諭、養護教諭、スクールカウンセラー、その他、学校現場で子どものこころの教育に携わっている方

(学級活動、総合的な学習の時間、道徳などの授業実践に、授業実践をご検討いただける先生であれば、どなたでもご参加いただけます。)



文部科学省委託事業
子どもみんな
プロジェクト

認知行動療法に基づく予防教育プログラムの指導者を養成します。
不安の問題に対処する知識とスキルを、授業で教えてみませんか？

◆ ワークショップの目的

子どもたちは様々な不安の問題を抱えており、それが学校生活での不適應（問題行動・不登校等）や学業成績の不振につながる場合も多くあります。その解決法として、不安の感情をコントロールする目的で、考え方（認知）や行動のパターンを見直す認知行動療法が、医療機関で実施されています。また近年、学校現場において、学級集団を対象に認知行動療法に基づく指導を行うことで、子どもたちの不安の点数を低減することが実証できています。

本ワークショップでは、小学校5～6年生から中学生の児童生徒向けに、学校（通常学級）で行う認知行動療法の授業を実践できるようになるためのワークショップです。

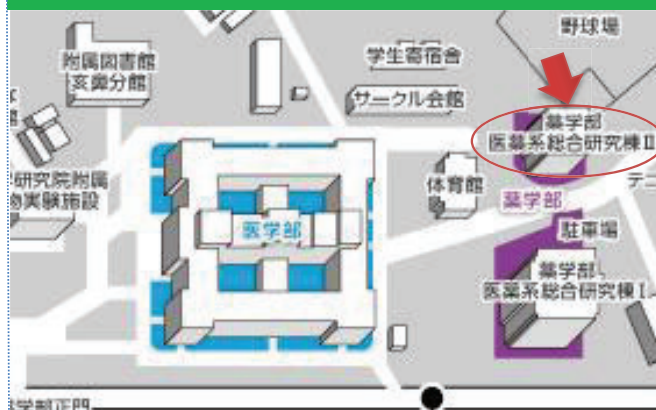
◆ お申し込み・お問い合わせ先

千葉大学子どものこころの発達教育研究センター
「勇者の旅」プログラム担当

Email: yuushanotabi@chiba-u.jp

- ①氏名（ふりがな）②性別 ③所属 ④職種 ⑤電話番号 ⑥メールアドレス* ⑦今年度実践（あり・なし・未定）を明記の上、**1月26日（日）**までに、上記メールアドレスまでお申し込み下さい。
- 「勇者の旅」HPからも直接お申込みいただけます。
- 今年度に勤務校にて授業実践予定の先生方は、優先的に本研修をご受講いただくことができますので、⑦に詳細をご記入ください。
- お申し込みが定員を超えた場合、抽選とさせていただきますので、あらかじめご了承ください。
- 抽選の結果等につきましては、1月31日（金）までに、⑥のメールアドレスへお送りいたします。

◆ 会場（医薬系総合研究棟Ⅱ）のご案内



バス停（千葉大学薬学部前）

JR千葉駅東口の7番の乗り場から、京成バス「大学病院」行きまたは「南矢作」行きに乗車し、「千葉大学薬学部前」で下車してください。千葉駅から6番目のバス停で所要約15分です。

【文部科学省委託事業】

本事業は、平成26年7月24日の文部科学省「情動の科学的解明と教育等への応用に関する調査研究協力者会議（審議のまとめ）」の提言を受け、研究と教育の現場をつなぐ目的で立ち上げられたものであり、平成27年度予算に基づき文部科学省の委託事業として大学コンソーシアム（大阪大学を基幹大学に、金沢大学、浜松医科大学、千葉大学、福井大学、鳥取大学、弘前大学、兵庫教育大学、武庫川女子大学、中京大学の10大学）により行われるものです。

【令和元年度いじめ対策等生徒指導推進事業】

脳科学・精神医学・心理学等と学校教育の連携の在り方「子どもみんなプロジェクト」のご案内

本取り組みでは、不登校、いじめ、子どもの問題行動とともに、子どもたちみんなの育ちと学びについて、教育実践者と基礎的学問領域の研究者がそれぞれの立場から、課題について考え、その解決策を探ります。(URL <http://smilesupporter.wix.com/kodomo>)

千葉大学
 **子どものこころの発達教育研究センター**

〒260-8670 千葉市中央区亥鼻1-8-1 電話：043-226-2975 Fax：043-226-8588

千葉大学
文部科学省課題解決型高度医療人材養成プログラム

公開フォーラム

メンタルサポート医療人とプロの連携養成

一般日常診療の場で遭遇する軽症の不眠、不安、うつ、認知症、依存症等の事例に対して、セルフヘルプをガイドしたい医療者の皆さまへ

私たちが2019年4月に立ち上げた「簡易（低強度）認知行動療法的アプローチによる相談支援を行うメンタルサポート医療人養成プログラム」では、このようなニーズをお持ちの医療者の方々に支援しています。

この度、第1期修了生のスピーチおよび特任研究員による発表、記念講演を開催いたします。

2020年2月16日（日）14：00～17：00

▶ 会場 千葉大学医学部 第一講義室

14:00 開場

14:30 修了証授与式

14:40 事業趣旨説明

清水 栄司
千葉大学大学院医学研究院
認知行動生理学 教授

14:50 修了生のスピーチ、特任研究員の発表

修了生	保健師	青木 利江子
	薬剤師	増田 由佳子
特任研究員	臨床心理士	奥田 朋子
	薬剤師	八木 三千代
	保健師	河崎 智子
	医師	花澤 奈央
	歯科医師	小出 奈央

16:00 ～ 17:00 記念講演

座長 白山 幸彦 先生

（帝京大学ちば総合医療センター精神神経科学）

『職場のメンタルヘルス対策の動向
— 昨今のトピックスに関連して —』

演者 桂川 修一 先生

（東邦大学医療センター佐倉病院メンタルヘルスクリニック）

記念講演のみの参加も歓迎です

【お問合せ先】

千葉大学大学院医学研究院 認知行動生理学

▶ neurophys1@ml.chiba-u.jp

▶ 043-226-2027（平日10時-16時）

※「メンサポ・メンプロ問合せ」とお伝えください

Chiba CBT

千葉認知行動療法



NPO 法人メンタルコミュニケーションリサーチ主催

スキーマセラピーワークショップ

2020
3.15 Sun
&
4.5 Sun

2020年3月15日

第1回目 スキーマ療法の基礎と実践

2020年4月5日

第2回目 成人 ASD 者に対するスキーマ療法の実践



時間

-9:30 受付開始-

10:00-12:00

-休憩-

13:00-16:00

参加費

各回:2万円

両日参加料金:3万8千円

両日早割料金:3万5千円

(早割料金 2020.2.30 迄)

会場

亀戸文化センター

kcf.or.jp/kameido/access/

定員

20名程度

臨床心理士ポイント申請予定

スキーマ療法とは、意識する認知的な問題の根本にあるスキーマに焦点を当てた心理療法です。

普段意識することのない深層にあるスキーマを理解し、ネガティブな自動思考を引き起こし続ける「信念・思い込み・価値観」を解消します。

スキーマ療法は、認知行動療法の治療構造を基盤としながら、愛着理論、ゲシュタルト療法等、様々な心理療法から統合的に理論と技法を取り入れています。イメージ法・チェアワークなどの体験的技法を取り入れている点も特徴のひとつです。

難治性疾患(パーソナリティ障害)に対して有効な治療法で、医療教育産業領域等、様々な現場で活用が期待されます。

この度、第1回「スキーマ療法の基礎と実践」第2回「成人 ASD 者に対するスキーマ療法の実践」を開催します。

講師：大島 郁葉 (千葉大学子どもの心の発達教育センター講師)

医学博士・臨床心理士・advanced schema therapist 資格・公認心理師

高機能の自閉スペクトラム症を専門とし、高機能自閉スペクトラム症やパーソナリティ障害の方へのスキーマ療法をはじめ、家族に対する心理教育に取り組む。日本初のアドバンスレベル国際認定スキーマ療法士。

申込先

①お名前 ②電話番号 ③Email アドレス ④参加日 ⑤MCR 会員の有無をご記入の上 mentalcr@yahoo.co.jp 又は 080-9035-2009 までお申し込みください。

*お申し込みの際にはメールの件名に「スキーマ WS 参加」とご記入ください。



研究費補助金

研究費補助金

文部科学省・日本学術振興会 科学研究費助成事業

新学術領域研究（研究領域提案型）

若林明雄（研究分担者）

多様な「個性」を創発する脳システムの統合的理解

新学術領域研究（研究領域提案型）

若林明雄（研究分担者）

「個性」創発脳システムの統合的理解を拓く国際的データシェアプラットフォームの構築

新学術領域研究（研究領域提案型）

若林明雄（研究代表者）

ヒトの認知機能の「個性」の基本構造のモデル化と脳画像解析による脳神経基盤の解明

挑戦的研究（萌芽）

清水栄司（研究代表者）

医学的に説明できない身体症状（MUPS）への本邦での段階的ケア体制の開発

挑戦的研究（萌芽）

杉田克生（研究代表者）、松澤大輔、大島郁葉（研究分担者）

神経発達症への包括的社会脳育成プログラム開発ならびに教員養成

基盤研究（A）

後藤弘子（研究分担者）

トラウマとジェンダーの相互作用：精神病理・逸脱・創造性

基盤研究（B）

清水栄司（研究代表者）

うつ不安の患者登録サイトでの費用対効果見える化と Stepped Care の誘導

基盤研究（B）

浅野憲一（研究代表者）

うつ病に対する複合的な集団コンパッション・フォーカスト・セラピープログラムの開発

基盤研究（C）

中川彰子（研究代表者）、清水栄司、加藤奈子（研究分担者）

強迫症の認知行動療法における遠隔スーパービジョンの有効性の検討

基盤研究 (C)
平野好幸 (研究代表者)
不安症・強迫症に対する認知行動療法の治療効果予測

基盤研究 (C)
平野好幸 (研究分担者)
新規減塩法構築のための揮発性成分によるうま味認知脳基盤に関する研究

基盤研究 (C)
永岡麻貴 (研究代表者)、大島郁葉、平野好幸、中川彰子 (研究分担者)
自閉症スペクトラム障害が併存する強迫性障害の実行機能に着目した心理プログラム開発

基盤研究 (C)
吉田齋子 (研究代表者)、清水栄司、浦尾悠子、平野好幸 (研究分担者)
不登校・ひきこもりへの遠隔認知行動療法の実用可能性と有効性の検証

基盤研究 (C)
大溪俊幸 (研究代表者)
認知行動療法の効果予測指標および効果判定指標の開発についての研究

基盤研究 (C)
若林明雄 (研究代表者)
社会的認知能力の個人差と脳皮質活動・視線サイモン効果との関連性に関する実験的研究

基盤研究 (C)
松澤大輔 (研究代表者)
発達期の脳 DNA メチル化再編がもたらす精神疾患発症脆弱性と次世代への継承

基盤研究 (C)
伊吹英恵 (研究代表者)、清水栄司 (研究分担者)
摂食障害への積極的治療戦略に向けて-量的・質的解析に基づくアセスメント技法の開発

基盤研究 (C)
伊藤絵美 (研究代表者)
慢性うつ病に対するスキーマ療法の有効性と費用対効果に関する無作為化比較試験

基盤研究 (C)
大島郁葉 (研究代表者)、土屋垣内晶、大溪俊幸 (研究分担者)
青年期の自閉スペクトラム症者と家族に対するスキーマ療法を用いた心理教育の実証研究

基盤研究 (C)

浦尾悠子 (研究代表者)、清水栄司、小柴孝子 (研究分担者)

認知行動療法に基づく不安予防プログラムの効果—保護者プログラムの併用可能性

基盤研究 (C)

沼田法子 (研究代表者)、清水栄司、関陽一 (研究分担者)

過食症に対する遠隔認知行動療法のランダム化比較試験による安全性と有効性の検証

基盤研究 (C)

松本一記 (研究代表者)、濱谷沙世、浦尾悠子、平野好幸 (研究分担者)

テレビ電話・動画視聴・アプリケーションによる新たな認知行動療法の開発と臨床応用

若手研究 (B)

土屋垣内晶 (研究代表者)

ASD の安静時脳機能結合評価と介入法の検討：より良い治療効果を得るために

若手研究

久能勝 (研究代表者)

通院が困難な子どもの強迫症に対する遠隔認知行動療法の実用可能性と有効性の検証

若手研究

濱谷沙世 (研究代表者)

過食症への遠隔認知行動療法の有効性及び費用対効果の検討

若手研究

高梨利恵子 (研究代表者)

痛みと心的イメージ～慢性疼痛に対する疼痛時イメージ書き直し技法の導入と効果検証

若手研究

平松洋一 (研究代表者)

慈悲への恐れを伴う難治性うつ病に対する恥の記憶と思いやりの記憶の効果について

研究活動スタート支援

荒木謙太郎 (研究代表者)

国際的な比較を可能とする新しい言語障害スクリーニング検査の開発

特別研究員奨励費

荒井穂菜美 (PD)

不安症候群の不安のコントロール感はエクスポージャー法への抵抗感を和らげるか

特別研究員奨励費

濱谷沙世 (PD)

神経性やせ症の神経基盤の解明およびメタ認知トレーニングの効果検証

心理教育相談事業経費

清水栄司

国立研究開発法人日本医療研究開発機構（AMED）受託研究費

国立大学法人広島大学 岡本泰昌（研究開発代表者）、清水栄司（研究開発分担者）
縦断的 MRI データに基づく成人期気分障害と関連疾患の神経回路の解明

国立研究開発法人国立精神・神経医療研究センター 関口敦（研究開発代表者）、
平野好幸（研究開発分担者）

摂食障害に対する認知行動療法の有効性の神経科学的エビデンスの創出

国立大学法人弘前大学 中村和彦（研究開発代表者）、清水栄司（研究開発分担者）
学童・思春期のこころの客観的指標と連携システムの開発

厚生労働省科学研究費補助金

清水栄司（研究分担者）

難治性疾患等を対象とする持続可能で効率的な医療の提供を実現するための医療経済
評価の手法に関する研究

大日本住友製薬株式会社共同研究経費

清水栄司

ファイザー アカデミック・コントリビューションレビュー経費

清水栄司

メンタルヘルス岡本記念財団研究助成金

中川彰子（研究代表者）

強迫症の認知行動療法治療者養成プロジェクト

大島郁葉（研究代表者）

不安症を合併する成人自閉症スペクトラム症に対する心理教育ツール開発：自閉スペ
クトラム特性理解に関する予備的研究

瀬戸美紅子（研究代表者）

成人期自閉スペクトラム症の社会的カモフラージュ行動と不安症との関連についての
検討

一般社団法人 日本心理臨床学会助成金

大島郁葉（研究代表者）

児童思春期の高機能自閉スペクトラム症者および家族に対する認知行動療法を用いた心理教育プログラム「ASDに気づいてケアするプログラム（Aware and Care for my AS Traits ; ACAT）」の開発と効果についての検証：ランダム化比較試験

寄附金

清水栄司（研究代表者）

子どものこころ奨学金

大学改革推進等補助金

清水栄司（事業推進責任者）

課題解決型高度医療人材養成プログラムメンタル・サポート医療人とプロの連携養成

学内研究推進事業 令和元年度リーディング研究育成プログラム

清水栄司（研究代表者）

心理学・精神科学の文理横断橋渡し研究拠点（心理精神科学）

いじめ対策・不登校支援等推進受託事業

清水栄司（研究代表者）

いじめ対策・不登校支援等推進事業

教育研究費等経費

大島郁葉（研究代表者）

認定スキーマ療法士取得資格ワークショップ

研究協力機関

認知行動療法センター

清水 栄司 センター長



医師の指導のもと、臨床心理士あるいは看護師が対面でマンツーマンの個人認知行動療法を行い、患者さんの問題および生活の質(QOL)の改善を目指します。毎週の通院が困難な方には、テレビ電話を用いた遠隔の認知行動療法も始めました。パニック症、過食症、慢性疼痛、不登校・ひきこもりに対する遠隔の認知行動療法の臨床研究も行っています。詳しくは、下記ホームページをご覧ください。

対象疾患

不安症(パニック、社交不安、恐怖症など)、強迫症、PTSD、うつ病、過食症、不眠症、慢性疼痛、身体症状症、自閉スペクトラム症など。

診療・研究内容

原則的に、毎週1回50分の個人面接を連続16~20回程度行い、料金は1回50分1万円(消費税別)です。各種公的医療保険は適用されません。

千葉大学子どものこころの発達教育研究センター、千葉大学大学院医学研究院・認知行動生理学と連携しています。お問い合わせ、お申し込みは、千葉認知行動療法ホームページからお願いいたします。

千葉認知行動療法ホームページ
<https://www.cocoro.chiba-u.jp/chibacbt/>



柏の葉診療所認知行動療法室ホームページ
<https://www.cocoro.chiba-u.jp/kashiwanoha-cbt/index.html>

2019年度認知行動カウンセリング診療統計 症例数(疾患別、性別・年代別)

■ 2019年度実績

延べ3,144件(対面式2,329件、遠隔式815件)の認知行動療法のセッションを行いました。他に臨床研究(ASDに気づいてケアするプログラム、ネット依存の子の親対象プログラム)の認知行動療法セッションも行っています。新規では195名の患者さんの診療を開始しました。

2019年度新規症例数(疾患別)

自閉スペクトラム症	26
強迫症	38
社交不安症	11
パニック症	24
全般不安症	8
広場恐怖症	4
PTSD	3
うつ病	17
双極性障害	2
適応障害	4
摂食障害	6
限局性恐怖症	2
嘔吐恐怖	1
場面緘黙	1
過敏性腸症候群	1
慢性疼痛	20
身体症状症	6
解離性障害	1
統合失調症	3
その他	4
子どもの不安症、ひきこもり、ネット依存の子を持つ保護者の方	13
合計	195

2019年度新規症例数(性別・年代別)

	男性	女性	合計
10代	40	19	59
20代	19	23	42
30代	11	24	35
40代	9	24	33
50代	5	14	19
60代	2	1	3
70代	1	3	4
合計	87	108	195

他にガイド付きインターネット認知行動療法(不安症、強迫症、神経性やせ症)や心理検査を行っています。

■ 自主臨床試験

テレビ電話で受けられる子どもの強迫症・過食症・ネット依存(子どもの保護者対象)の認知行動療法、2年以上のうつ病のスキーマ療法、全般性不安・強迫症・子どもの不安症(親対象)・ひきこもりの保護者対象の認知行動療法、神経やせ症のガイド付きのインターネット認知行動療法の臨床試験を実施中です。

お問い合わせ、お申し込みは、「千葉認知行動療法ホームページ」(前ページにリンクがあります)からお願いいたします。

連合小児発達学研究科

令和
2年度

大阪大学大学院 大阪大学・金沢大学・浜松医科大学・千葉大学・福井大学



連合小児発達学研究所

博士課程学生募集

後期3年
のみの課程

本研究科は、子どものこころに携わる様々な専門職の人たちを連携・統合できる
高度な指導者や医学医療、心理学、教育学の基盤に立って、子どものこころと
脳発達及びその障がいに関わる研究者の養成を目指しています。

試験内容

英語(外部英語試験のスコア等を用います)
及び 口述試験(プレゼンテーション)

詳細は、ホームページをご覧ください

<http://www.ugscd.osaka-u.ac.jp/>

試験日程

第1回
出願期間 ▶ 令和元年 8月13日(火)～ 8月23日(金)
試験日 ▶ 令和元年 9月14日(土)
合格者発表 ▶ 令和元年10月 7日(月)

第2回
出願期間 ▶ 令和元年12月 6日(金)～12月18日(水)
試験日 ▶ 令和2年 2月 1日(土)
合格者発表 ▶ 令和2年 2月10日(月)

入学資格

修士課程を修了または令和2年3月までに修了見込みの方が
対象で、特に次の方々の進学に最適な研究科です。

- ①心理学系、教育学系、保健学・看護学系、社会福祉学系の
修士課程を修了または修了見込みの方
 - ②子どものこころに関わる経験を持つ医師、学校教師、スク
ールカウンセラー、看護師、臨床心理士等の社会人の方
- ※修士課程修了者でなくても、出願資格審査に合格することで、受験資格が得られます。

出願資格審査

第1回
受付期間 ▶ 令和元年 6月17日(月)～ 6月28日(金)
試験日 ▶ 令和元年 7月18日(木)

第2回
受付期間 ▶ 令和元年10月21日(月)～11月 1日(金)
試験日 ▶ 令和元年11月14日(木)

募集定員

15名

お問い合わせ先

大阪大学

医学系研究科総務課
連合研究科担当
TEL:06-6879-3026
FAX:06-6879-3347
Email:office@ugscd.osaka-u.ac.jp
〒565-0871 大阪府吹田市山田丘2-2

金沢大学

医薬保健系事務部学生課
医学大学院係
TEL:076-265-2811
TEL:076-234-4208
FAX:076-234-4208
Email:t-daigakuin@adm.kanazawa-u.ac.jp
〒920-8640 石川県金沢市宝町13-1

浜松医科大学

入試課入学試験係
TEL:053-435-2205
FAX:053-433-7290
Email:nyushi@hama-med.ac.jp
〒431-3192 静岡県浜松市東区
半田山一丁目20番1号

千葉大学

医学部大学院学務係
TEL:043-226-2009
FAX:043-226-2005
Email:sah5234@office.chiba-u.jp
〒260-8670 千葉県千葉市中央区
亥鼻1-8-1

福井大学

松岡キャンパス学務課
入試担当
TEL:0776-61-8246
FAX:0776-61-8163
Email:m-nyushi@ml.u-fukui.ac.jp
〒910-1193 福井県吉田郡永平寺町
松岡下合月23-3

【時間割表・導入科目】

【春学期】(4/1-6/10)											【夏学期】(6/11-9/30)									
	4/1	4/8	4/15	4/22	4/29	5/6	5/13	5/20	5/27	6/3	6/10	6/17	6/24	7/1	7/8	7/15	7/22	7/29	8/5	
月	5	発達臨床心理学 1			休業日	休業日	発達臨床心理学 1					発達臨床心理学 2				発達臨床心理学 2				
		酒井	山本	山本			奥野	吉崎	吉崎(0.5)	金澤	金澤	松本	奥野	野坂	望月	唐津	野村	酒井		
		生命倫理学					基礎神経科学									発表会				社会支援学
6	平井			謝			佐藤	佐藤	岡	岡								辻井	酒井(0.5)	
	4/2	4/9	4/16	4/23	4/30	5/7	5/14	5/21	5/28	6/4	6/11	6/18	6/25	7/2	7/9	7/16	7/23	7/30	8/6	
	火	5	小児発達医学 1			休業日	小児発達医学 1					小児発達評価学								
谷池			橋	毛利	毛利		加藤	加藤	友田	谷池	上田	吉村	大井	吉村	藤澤	藤澤	大井	予備日	夏季休業	
生命倫理学			教育福祉学					小児発達評価学	発達分子生物学					社会支援学						
6	村上			和久田			河合	河合	服巻		上田	休講					辻井			
	4/3	4/10	4/17	4/24	5/1	5/8	5/15	5/22	5/29	6/5	6/12	6/19	6/26	7/3	7/10	7/17	7/24	7/31	8/7	
	水	5	認知行動療法学1			いちょう祭(準備)	認知行動療法学1					認知行動療法学2								
清水			浦尾	杉山	伊藤		中川	伊藤	平野	久能	久能(0.5)	関	関	中川	沼田	高橋	大島	大島	夏季休業	
生命倫理学			教育福祉学					小児保健学												
6	加藤			和久田			河合	服巻	服巻		酒井	友田	山崎	山崎(0.5)	滝口	酒井	川谷	菊池		
	4/4	4/11	4/18	4/25	5/2	5/9	5/16	5/23	5/30	6/6	6/13	6/20	6/27	7/4	7/11	7/18	7/25	8/1	8/8	
	木	5	疫学統計学 1			いちょう祭	疫学統計学 1					教授会開催予定日	疫学統計学 2			教授会開催予定日	疫学統計学 2			教授会開催予定日
武井			桑原	桑原	桑原		土屋	土屋	土屋		西村	西村	西村		土屋	土屋	武井			
生命倫理学			疫学統計学 1	発表会			発表会		発表会		疫学統計学 2			疫学統計学 2						
6	加藤			西村									土屋			武井				
	4/5	4/12	4/19	4/26	5/3	5/10	5/17	5/24	5/31	6/7	6/14	6/21	6/28	7/5	7/12	7/19	7/26	8/2	8/9	
	金	5	基礎神経科学			いちょう祭	臨床遺伝学					発達分子生物学								
佐藤			柴	佐藤	酒井		酒井	松崎	岩田		松崎(伸)	松崎(伸)(0.5)	吉村(武)	服部	片山/高村	三好	眞部	白井	夏季休業	
生命倫理学			臨床遺伝学					社会支援学												
6	小門			酒井			國分	松崎	岩田		辻井	休講	休講	辻井	辻井	辻井	辻井			

【秋学期】(10/1-12/9)											【冬学期】(11/27-3/31)													
	9/30	10/7	10/14	10/21	10/28	11/4	11/11	11/18	11/25	12/2	12/9	12/16	12/23	12/30	1/6	1/13	1/20	1/27	2/3					
月	5	機能画像解析学 1			休業日	機能画像解析学 1	休業日	機能画像解析学 1					機能画像解析学 2				冬季休業	教授会開催予定日	休業日	機能画像解析学 2				
		安倍	齋藤	島田				丁	清野	北村	岡沢	島田	小坂	丁	丁	下野		平野		菊知				
		10/1	10/8	10/15				10/22	10/29	11/5	11/12	11/19	11/26	12/3	12/10	12/17		12/24		12/31	1/7	1/14	1/21	1/28
火	5	小児発達医学 2			休業日	小児発達医学 2					小児発達療育学				冬季休業	小児発達療育学								
		楠木	佐藤	下野		和田	谷池	大藪	下野	富永	平谷	小林	清水	清水		藤岡	藤岡	荒木	荒木					
		児童精神医学 1				児童精神医学 1					児童精神医学 2					児童精神医学 2								
6	高貝			高橋			高貝	黒田	亀野	高貝	桑原	桑原	桑原	高貝	杉山	杉山	山末	土屋						
	10/2	10/9	10/16	10/23	10/30	11/6	11/13	11/20	11/27	12/4	12/11	12/18	12/25	1/1	1/8	1/15	1/22	1/29	2/5					
	水	行動情動神経科学 1					行動情動神経科学 2					冬季休業	冬季休業	行動情動神経科学 2										
柴		柴	松井	大黒	堀家	堀家	三枝	三枝	堀	堀	辻			辻	遠山	遠山	柴	柴						
神経社会環境学																								
6	池田			池田			東田			村中			齋藤			越田			滝澤			菊知		
	10/3	10/10	10/17	10/24	10/31	11/7	11/14	11/21	11/28	12/5	12/12	12/19	12/26	1/2	1/9	1/16	1/23	1/30	2/6					
	木	5	運動生体管理学 1			教授会開催予定日	運動生体管理学 1			運動生体管理学 2	教授会開催予定日	運動生体管理学 2			冬季休業	冬季休業	運動生体管理学 2				教授会開催予定日			
堀			堀	横山	横山		横山	横山	横山		吉川	吉川	堀家	堀家			堀家	東田						
運動生体管理学 1			発表会				発表会			運動生体管理学 1			運動生体管理学 2											
6	堀			堀			横山			横山			横山			吉原								
	10/4	10/11	10/18	10/25	11/1	11/8	11/15	11/22	11/29	12/6	12/13	12/20	12/27	1/3	1/10	1/17	1/24	1/31	2/7					
	金	神経薬理学 1			神経薬理学 1	神経薬理学 1					神経薬理学 2				冬季休業	冬季休業	神経薬理学 2			臨時休業				
田熊		休講	田熊	田熊		田熊	早田	早田	橋本	早田	早田	片山	片山	片山			片山	片山						
田熊			田熊			田熊			田熊			田熊					田熊							

※授業担当教員より、期限の指定があった場合を除き、当該講義日から2週間以内に提出すること。

2019年度 春夏期 認知行動療法学演習（千葉校）ご案内

日程	7月29日 月曜日	7月30日 火曜日	7月31日 水曜日	8月1日 木曜日
集合場所	亥鼻キャンパス 医薬系総合研究棟Ⅱ 7F 子どものこころの発達教育研究センター			
1限	9:30～12:00 演習：学校認知行動療法研 修会 講師：浦尾悠子 場所：地下1階大会議室	10:00～11:00 演習：マインドフルネスそ の1 講師：伊藤絵美 場所：7F セミナー室	10:00～12:00 演習：スーパービジョン の陪席 講師：清水栄司・関陽一 場所：7F セミナー室	10:00～12:00 演習：神経性やせ症の認知 機能改善療法 講師：沼田法子 場所：7F セミナー室
2限		11:10～12:00 演習：マインドフルネスそ の2 講師：伊藤絵美 場所：7F セミナー室		
	12:00～13:00 ウェルカムランチ			
3限	14:30～17:30	13:00～14:30 演習：認知再構成法その1 講師：伊藤絵美 場所：7F セミナー室	13:00～16:00 演習：臨床演習 強迫症のアセスメント陪席 (またはビデオで説明) 講師：①中川彰子（成人） ：②久能勝（児童） 場所：①TV会議室 →附属病院外来 ②7F セミナー→附属病院 外来 それぞれのケースの説明を 行い、外来に移動する。	13:00～16:00 演習：児童期以降の自閉ス ペクトラム症者の認知行動 療法を用いた心理教育プロ グラム：陪席または症例検 討 講師：大島郁葉 場所：TV会議室
4限	演習：脳画像検査の実践 講師：平野好幸 場所：放射線医学総合研究 所	14:40～15:40 演習：認知再構成法その2 講師：伊藤絵美 場所：7F セミナー室		

※臨床ケースを扱う演習となるため、内容や時間等について変更になることがあります。

※1日目午前中は、学校の先生方を対象とした研修会（指導者養成6時間ワークショップ）にご参加いただく形の演習です。

2019年度 秋冬期 認知行動療法学演習（千葉校）ご案内

日程	2月3日 月曜日	2月4日 火曜日	2月5日 水曜日	2月6日 木曜日
集合場所	亥鼻キャンパス 医薬系総合研究棟II 7F 子どものこころの発達教育研究センター		放射線医学総合研究所	亥鼻キャンパス医薬系総合研究棟II 7F 子どものこころの発達教育研究センター
1限	10:00～11:00 演習：マインドフルネスその1 講師：伊藤絵美 <u>場所：7F セミナー室</u>	9:30～12:00 演習：学校認知行動療法「勇者の旅」プログラム 講師：浦尾悠子 <u>場所：7F セミナー室</u>	9:30～11:30 演習：脳画像検査の実践 講師：平野好幸 <u>場所：放射線医学総合研究所</u>	10:00～12:00 演習：スーパービジョンの陪席 講師：清水栄司・関陽一 <u>場所：7F セミナー室</u>
2限	11:10～12:00 演習：マインドフルネスその2 講師：伊藤絵美 <u>場所：7F セミナー室</u>			
	12:00～13:00 ウェルカムランチ お弁当を用意させていただきます。		（子どものこころの発達教育研究センターへ移動）	
3限	13:00～14:30 演習：認知再構成法その1 講師：伊藤絵美 <u>場所：7F セミナー室</u>	13:00～15:40 演習：神経性やせ症の認知機能改善療法 講師：沼田法子 <u>場所：7F セミナー室</u>	13:00～15:30 演習：強迫症アセスメント（外来診察の陪席） 千葉校到着後～13:45 本日の陪席の説明 児童、成人の2グループに分かれる <u>場所：児童：TV会議室</u> <u>成人：708号室</u>	13:00～15:40 演習：成人の自閉スペクトラム症のアセスメント：症例検討 講師：大島郁葉 <u>場所：7F セミナー室</u>
4限	14:40～15:40 演習：認知再構成法その2 講師：伊藤絵美 <u>場所：7F セミナー室</u>		14:00～15:30 演習：強迫症アセスメント（外来診察の陪席） 講師：中川彰子（成人） ：久能勝（児童） <u>場所：附属病院外来</u> 陪席のない場合は上記2グループに分かれてビデオ視聴などで治療の実際の説明	

※臨床ケースを扱う演習となるため、内容や時間等について変更になることがあります。

規定

○千葉大学子どものこころの発達教育研究センター規程

平成 27 年 4 月 1 日

制定

(趣旨)

第 1 条 この規程は、千葉大学子どものこころの発達教育研究センター(以下「センター」という。)の組織及び運営に関し必要な事項を定める。

(目的)

第 2 条 センターは、子どもから大人までの幅広い発達段階の人間のこころと脳に関する教育研究を行うとともに、様々な分野横断的及び学際的アプローチを用いて、こころと脳の問題に取り組むことができる高度な専門職を養成することを目的とする。

(組織)

第 3 条 センターに、次の部門等を置く。

- 一 認知行動療法学部門
- 二 認知行動脳科学部門
- 三 メンタルヘルス支援学部門

(職員)

第 4 条 センターに、次の職員を置く。

- 一 センター長
- 二 教授、准教授、講師及び助教
- 三 その他の職員

(教員会議)

第 5 条 センターに、千葉大学教授会規程第 4 条の規定に基づき、教員会議を置く。

2 教員会議に関し必要な事項は、別に定める。

(センター長の選考等)

第 6 条 センター長の選考及び任期については、千葉大学部局長選考等規程の定めるところによる。

(センター長の職務)

第 7 条 センター長は、センターの業務を総括する。

(副センター長)

第 8 条 センターに、副センター長を置く。

- 2 副センター長は、センター長の職務を補佐する。
- 3 副センター長の選考は、センター長が行う。
- 4 副センター長の任期は 2 年とし、再任を妨げない。ただし、選考したセンター長の任期の終期を超えることはできない。

(教員の選考)

第9条 教員の選考については、国立大学法人千葉大学における大学教員の選考に関する規程の定めるところによる。

(事務)

第10条 センターの事務は、医学部事務部において処理する。

(雑則)

第11条 この規程に定めるもののほか、センターに関し必要な事項は、別に定める。

附 則

- 1 この規程は、平成27年4月1日から施行する。
- 2 千葉大学大学院医学研究院附属子どものこころの発達研究センター規程(平成23年4月1日制定)は、廃止する。

附 則

この規程は、平成27年10月1日から施行する。

附 則

この規程は、平成30年4月1日から施行する。

附 則

この規程は、平成31年4月1日から施行する。

千葉大学子どもこころの発達教育研究センター運営委員会規程

(趣旨)

第1条 この規程は、千葉大学子どもこころの発達教育研究センター規程第5条第2項の規定に基づき、千葉大学子どもこころの発達教育研究センター運営委員会（以下「運営委員会」という。）の組織及び運営に関し必要な事項を定める。

(審議事項)

第2条 運営委員会は、千葉大学子どもこころの発達教育研究センター（以下「センター」という。）の管理運営及び教育研究に関する重要事項を審議する。

(組織)

第3条 運営委員会は、次の各号に掲げる者をもって組織する。

- 一 センター長
- 二 副センター長
- 三 センター長が指名する者
- 四 その他運営委員会が必要と認めた者

2 前項第3号及び第4号の構成員の任期は2年とし、再任を妨げない。ただし、補欠の構成員の任期は、前任者の残任期間とする。

3 第1項第3号及び第4号の構成員は、センター長が委嘱する。

(委員長)

第4条 運営委員会に委員長を置き、センター長をもって充てる。

2 委員長は、運営委員会を招集し、その議長となる。

3 委員長に事故あるときは、委員長があらかじめ指名した構成員が、その職務を代行する。

(議事)

第5条 運営委員会は、構成員の3分の2以上が出席しなければ、議事を開き、議決することができない。

2 海外渡航及び休職中の者は、前項の算定基礎数に含めないものとする。

3 運営委員会の議事は、出席した構成員の過半数をもって決し、可否同数のときは、議長の決するところによる。

(構成員以外の出席)

第6条 委員長は、必要と認めるときは、構成員以外の者を運営委員会に出席させることができる。

(庶務)

第7条 運営委員会の庶務は、医学部事務部において処理する。

(雑則)

第8条 この規程に定めるもののほか、運営委員会に関し必要な事項は、別に定める。

附 則

1 この規程は、平成27年4月1日から施行する。

2 千葉大学大学院医学研究院附属子どもこころの発達研究センター運営会議規程（平成23年4月1日制定）は、廃止する。

【制定理由】

千葉大学子どもこころの発達教育研究センター規程第5条第1項に基づき、本センターに運営委員会を置き、管理運営及び教育研究に関する重要事項を審議するため

自己点検・評価

令和元年度自己点検・評価

令和2年6月3日

評価項目	評価	評価内容
1. 設置目的・意義・必要性 子どものこころの発達教育研究センターの設置目的が明確に定められており、その目的が千葉大学の担うべき役割として適切なものであること	A	増加する自殺、虐待、不登校、いじめ、等の子どものメンタルヘルスの問題のに対する介入に社会的な要請が高まっている中、子どものこころの発達を扱う専門家の養成や子どもに対する認知行動療法のプログラム開発とその有効性を実践的な研究で検証し、臨床現場での治療や学校現場での予防に役立てるという設置目的・意義・必要性は適切であると考ええる。
2. 活動内容 子どものこころの発達教育研究センターの設置目的を達成するための教育研究事業の活動状況が、センター全体として、また各研究部門などを単位として十分に行われているか	A	子どものこころの発達教育研究センターの設置目的を達成するための教育研究事業の活動状況は、各研究部門が独自の専門性と研究法を用いて、相互に関連を持ちながら、共通の課題に取り組んでいる点、及びその成果が多く論文として国際的にも議論し合える水準にある点、学校で授業として行う認知行動療法プログラム「勇者の旅」の普及等、センター全体としても各研究部門においても十分に行なわれていると考える。
3. 事業の独創性・革新性 子どものこころの発達教育研究センターにおける教育研究事業は、独創的あるいは革新的であるか	A	認知行動療法の開発、臨床現場および学校現場での実施、専門家の養成、脳科学的側面からの研究の実施を手掛けており、当該事業は独創的かつ革新的であると考ええる。
4. 総合評価 子どものこころの発達教育研究センターにおける教育研究事業は、設置目的の必要性、事業の有効性、独創性および革新性において、総合的にどのような段階か	A	センターの教育研究事業における設置目的の必要性は依然として高く、事業の有効性、独創性および革新性も高い、さらなる事業の継続と発展が期待される段階にあると考える。

【評価】 S：極めて適切である

A：適切である。

B：必ずしも適切であるとはいえないため、今後、大幅な再検討を加える必要がある

F：適切ではない

令和元年度（2019年度）
千葉大学子どもこころの発達教育研究センター
自己点検・評価報告書

発行 : 令和2年（2020年）11月30日
発行者 : 千葉大学子どもこころの発達教育研究センター
〒260-8670 千葉市中央区亥鼻1-8-1
TEL : 043-226-2975
FAX : 043-226-8588
E-mail : chibarccmd@ML.chiba-u.jp
HP : <https://www.cocoro.chiba-u.jp>

形のないものだからこそ、
こころの声は聞こえにくい

子どもこころの療育・教育のために

